

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type - PD • User's Manual

T オフィスシリーズ Type - PD

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。

ご使用前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

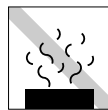
警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



表示されている電源(交流100V)以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



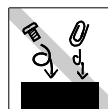
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

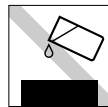
感電・火災の原因となります。



異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

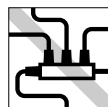
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。



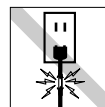
警告

破損した電源コードは、使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・熱器具の近くに配線しない。

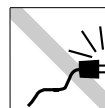
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



マウスボールは、絶対に投げないでください。

マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。

感電の原因となります。



注意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



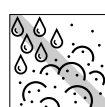
不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



湿気やホコリの多い場所に置かないでください。

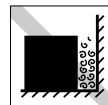
感電・火災の危険があります。



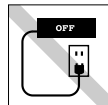
⚠ 注意

本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は次の点を守ってください。

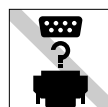
- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
- ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

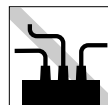


FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

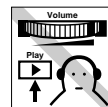
- ・構内交換機（PBX）
- ・2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック



本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となるおそれがあります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となるおそれがあります。



メモリの交換やリチウム電池の交換などは、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。
火傷や化学物質による被害の原因となります。
万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。



本製品の背面には取手が付いていますが、移動する場合は重いので片手で行わないでください。落下してけがをする危険があります。片手で取手を持ち、もう一方の手で本製品を支えて移動を行ってください。



使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

メモリの増設やコンピュータに接続できる機器について説明します。

SCUの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「SCU」の設定を変更する方法について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項と対処方法について説明します。

付録

お手入れ方法、ハードディスクドライブを購入時の状態に戻す方法や仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について (7)

製品保護上の注意 (10)

- 使用・保管時の注意 (10)
- 記録メディア (11)
- マウス (13)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 2

- コンピュータを使い始めるまでの手順 ... 2
- ご使用前の確認事項 3
- システムの特長 4
- 添付されているソフトウェア 5

各部の名称と働き 7

- 前面 7
- 背面 8
- 右側面 9
- 左側面 10

コンピュータの設置 11

電源の入れ方とWindowsのセットアップ 17

- Windowsを使用できるようになるまでの作業 .. 17
- 電源を入れる前に 18
- 電源の入れ方とWindowsの起動 19
- Windowsのセットアップ 20

セットアップ終了後の作業 26

- バックアップディスクの作成 26
- Windows98起動ディスクの作成
(Windows98のみ) 28
- セットアップブートディスクの作成
(Windows2000のみ) 29
- ネットワークに接続する 30

FAXモデムの設定 30

赤外線通信の設定 30

VirusScan for Windowsのインストール ... 30

Windows使用時の確認事項 31

- 2回目以降に電源を入れる 31
- 音量の調節 31
- 省電力機能 32
- 電源ランプの表示 32
- デバイスドライバをインストールするときは ... 32
- 購入時のHDD領域の設定について ... 33
- デスクトップクリーンアップ(WindowsXPのみ) .. 33
- インタラクティブトレーニング(WindowsXPのみ) .. 33
- JAVA VMのインストール(WindowsXPのみ) .. 34

電源の切り方 35

Windows98の終了と電源の切り方 35

Windows2000の終了と電源の切り方 36

WindowsXPの終了と電源の切り方 36

リセット 37

コンピュータの基本操作

マウスを使う 40

- マウスの操作 40
- マウスの設定変更 40

キーボードを使う 41

- キーの種類と役割 41
- 文字を入力するには 42
- 日本語を入力するには 42
- キーロック表示ランプの機能 43
- Fnキーと組み合わせて使うキー 44
- Windowsキーの働き 44

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う 45

FDのセットと取り出し 45

パスワードの設定	115
SCUの設定項目	118
SCUの設定値	122

こんなときは

困ったときに	126
コンピュータ本体の不具合	126
省電力機能に関する不具合	129
キーボードの不具合	129
マウスの不具合	131
LCDの不具合	132
FDDの不具合	135
HDDの不具合	136
CD-ROMドライブの不具合	136
アプリケーションソフトの不具合	138
メモリの不具合	139
PCカードの不具合	139
プリンタの不具合	140
スピーカの不具合	140
インストール時の不具合	141
FAXモデムの不具合 (FAXモデム機能搭載モデル)	142

警告メッセージが表示されたら	145
-----------------------------	------------

付録

お手入れ	150
本機のお手入れ	150
マウスのお手入れ	150
リチウム電池の交換	152
CMOS RAMの初期化	155

ATコマンドの使用 (FAXモデム機能搭載モデルのみ)	158
--	------------

FAXモデムボードを取り外すには (FAXモデム機能搭載モデルのみ)	160
--	------------

HDDを購入時の状態に戻す	162
----------------------------	------------

必要なメディア	162
HDDを購入時の状態に戻す順番 ...	163
HDDを購入時の状態に戻す場合の注意 ..	164
リカバリの実行	167
ディスプレイの設定	168
マウスドライバのインストール	170
FAXモデムドライバのインストール (FAXモデム機能搭載モデル) ...	171
各種ドライバのインストール	174
Save to Disk領域の作成 (Windows98のみ)	176

HDD領域の変更	178
-----------------------	------------

MS-DOS領域の概要	178
HDD領域変更の手順	179
FDISKコマンド	180
コンピュータの起動	181
HDD領域の変更 (Windows98/Windows2000)	182
HDD領域の変更 (WindowsXP)	186

機能仕様一覧	191
---------------------	------------

用語集	192
------------------	------------

索引	199
-----------------	------------

マニュアル中の表記について

本書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくことと便利なことを記載しています。



説明文が次ページに続くことを示します。




参照ページを示します。




1 2

操作手順です。



ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

 はEnterキーを表します。また、 は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。

この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータに関連する製品の名称を次のように表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書では、オペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 98

Microsoft® Windows® 98 Operating system

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional

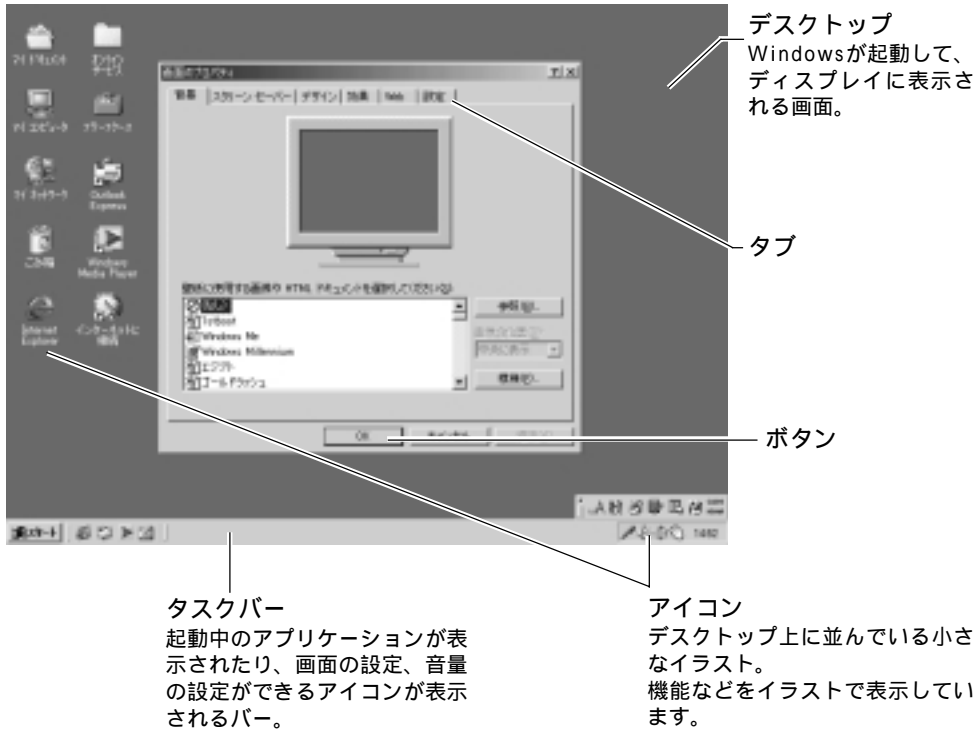
Microsoft® Windows® XP Home Edition

MS-DOS

Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows98/Windows2000)

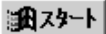
本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

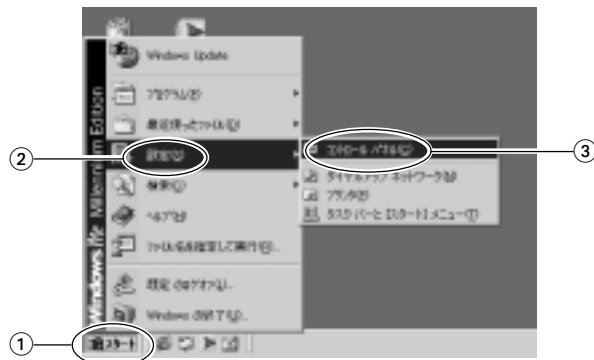


Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート]をクリックします。

実際の操作 :  をクリックします。



記載例 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート]をクリックします。

② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

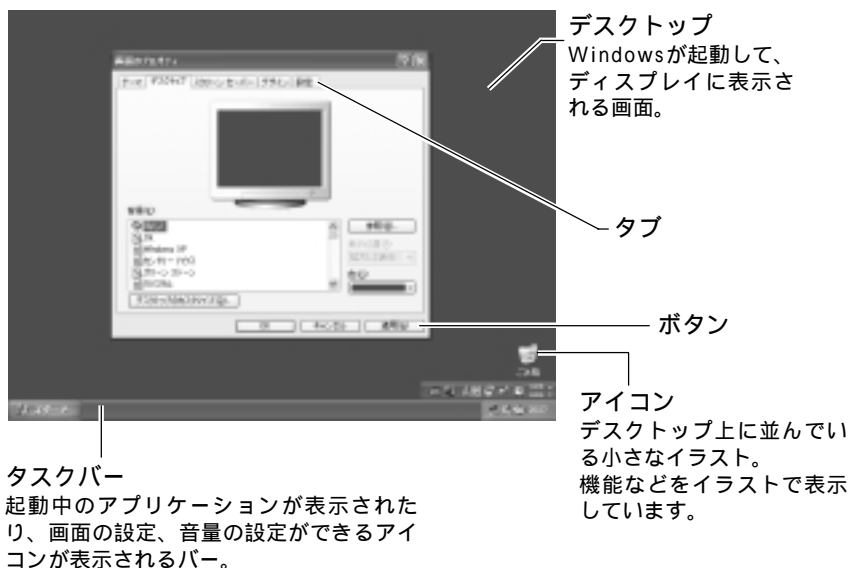
③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

Windowsの画面表示に関する記載方法(WindowsXP)

本書では、WindowsXP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

マニュアル中で採用している画面は、主にWindows98/Windows2000のものです。

WindowsXPで表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。



Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] をクリックします。

実際の操作 :  をクリックします。



記載例 : [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

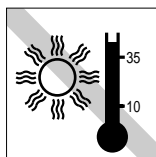
② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

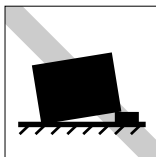
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

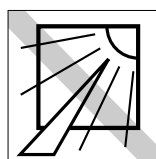
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



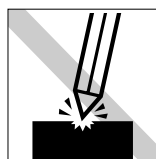
温度が高すぎる所や低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



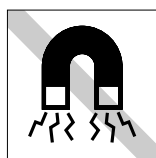
不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。



直射日光の当たる所や発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



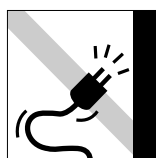
LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。



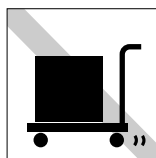
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するもの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



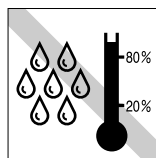
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



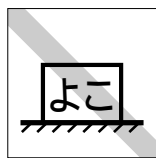
電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



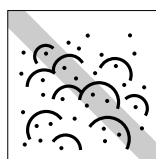
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



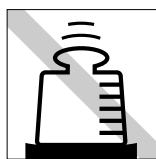
湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20% ~ 80%です。



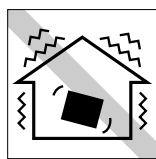
コンピュータ本体を横置きにしないでください。
故障、誤動作の原因になります。
本機は縦置き専用で設計されています。



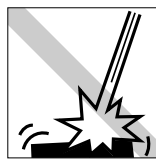
ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



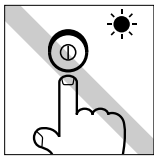
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
倒れたり、重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



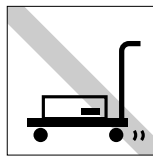
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



本製品を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。



アクセラランプが点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットをしないでください。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブル、FD、CD-ROMなどは取り外してください。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

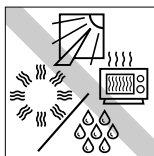
FD

FD

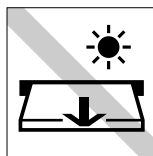
CD-ROM・DVD-ROMなど

CD

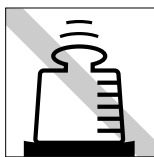
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



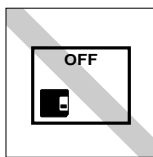
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



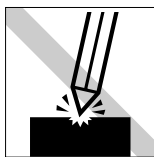
アクセラランプが点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、リセットをしないでください。



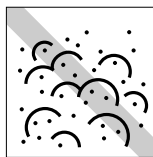
上に物を載せないでください。



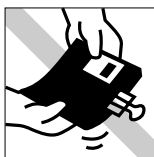
使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



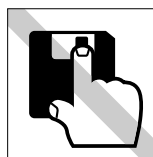
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



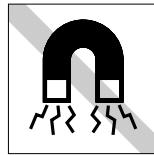
クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセラカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。FD



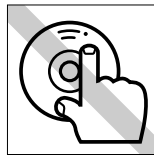
磁性面にホコリや水を付けしないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD



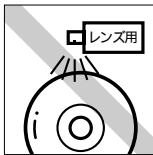
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。FD



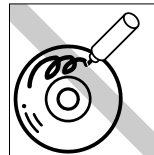
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。FD



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。CD



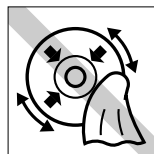
レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。CD



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD



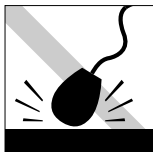
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。CD



シールを貼らないでください。CD

マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



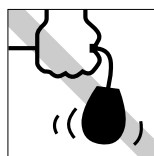
落としたり、ぶつかけたりして強い衝撃を与えないでください。



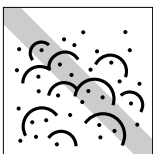
マウスボールを素手で触らないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。



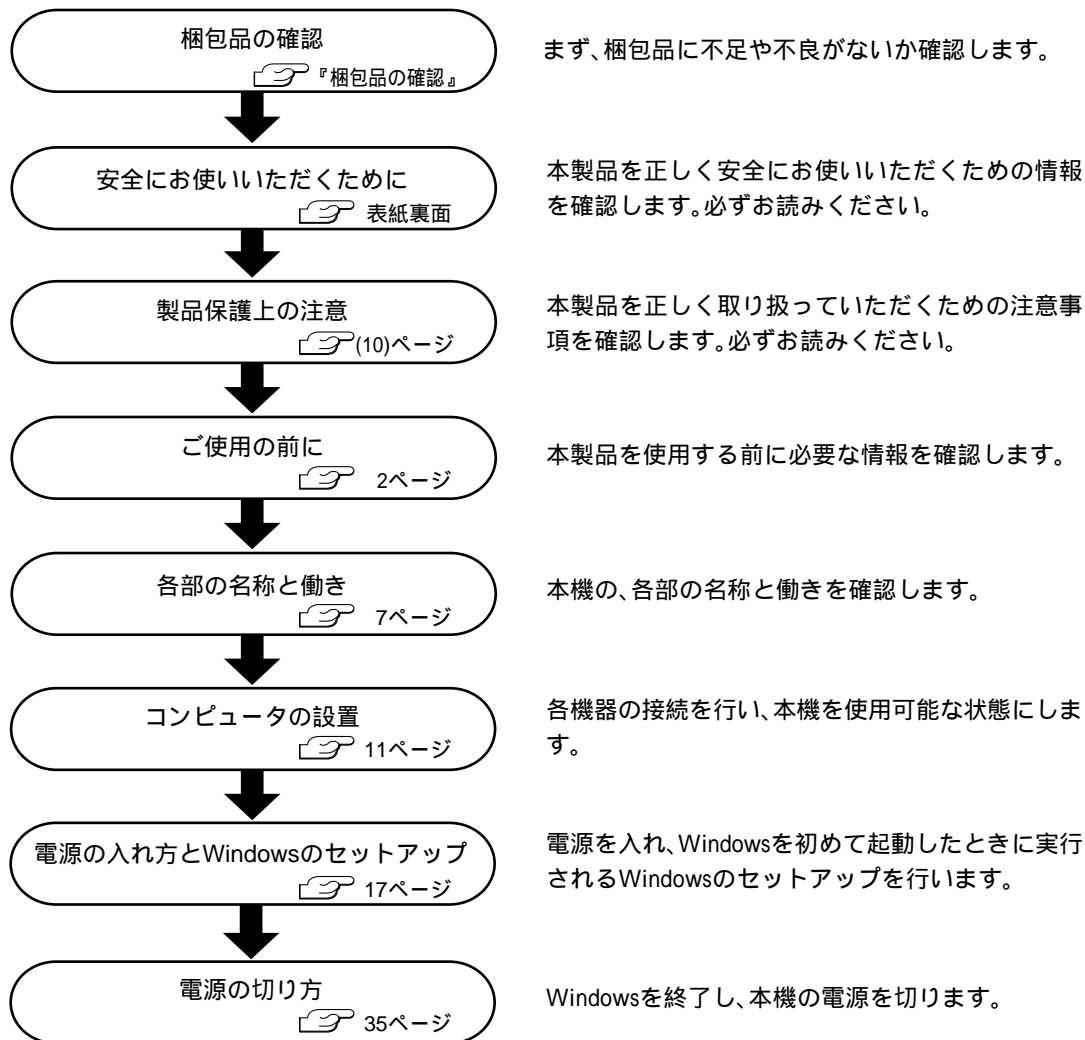
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めてコンピュータを使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認 本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは、絶対にはがさないでください。

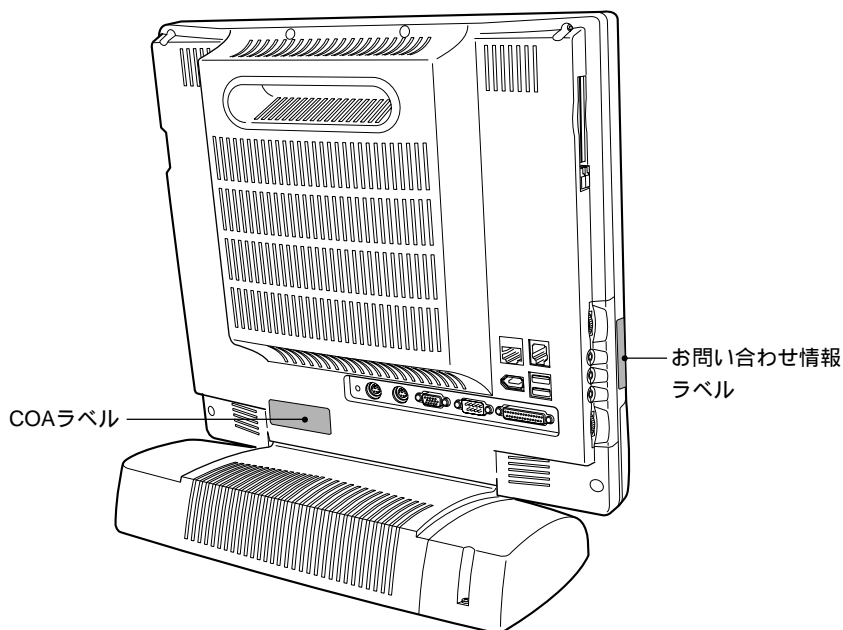
お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製品番号が記載されています。弊社へのサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際に、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。絶対にはがさないでください。



システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。

PCカードスロット

PC Card Standard準拠Card Bus対応のPCカードスロットを2本装備しています。

表示

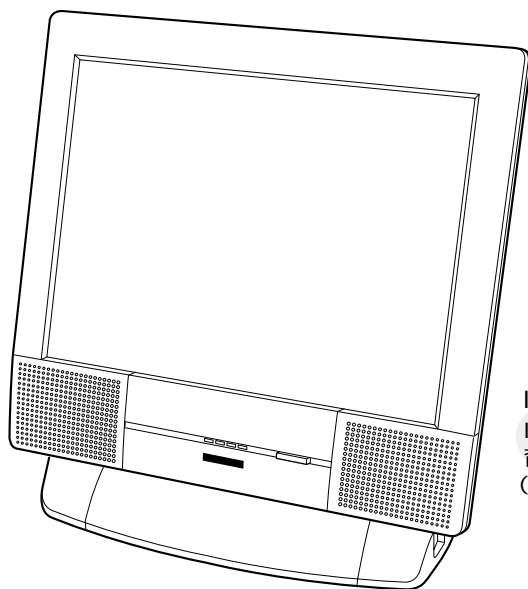
XGA(1024×768ドット)の高精細かつ鮮明なワイドビューアングルTFT液晶ディスプレイ(LCD)を一体型で搭載しています。

メモリ容量

128MBのSDRAM(Synchronous DRAM)を標準で搭載しています。最大512MBまで拡張できます。

ステレオスピーカ内蔵

ステレオスピーカを内蔵しています。



IEEE1394機能

IEEE1394コネクタ(6ピン)を背面に1個装備しています。(IEEE1394機能搭載モデル)

CPU性能

Intel PentiumIIIプロセッサまたはIntel Celeronプロセッサを搭載しています。

FAXモデム機能

V.90に対応したFAXモデムを内蔵しています。(FAXモデム機能搭載モデル)

ネットワーク機能

100BASE-TXに対応したネットワーク機能を内蔵しています。

USB

USBコネクタを側面2個、背面2個の計4コ装備しています。

添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。

表中記号の見方



： 購入時には、HDDにインストールされています。






： 購入時には、インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。




リカバリCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows98 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル	WindowsXP インストールモデル
Windows Windowsは、最新のものでインストールされています。			
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。			
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。			
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのドライバです。			
FAXモデムドライバ(FAXモデム機能搭載モデル) FAXモデム機能を使用するためのドライバです。			
Save to Disk領域作成ユーティリティ 省電力モードの休止状態を保存する領域を作成するためのユーティリティです。			
AGPドライバ 画面の高速表示をするためのドライバです。			
IDEドライバ DMA機能を有効にするためのドライバです。			
FIRドライバ 赤外線通信(FIRモード)を行うためのドライバです。			
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類をそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。			




ユーティリティCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows98 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル	WindowsXP インストールモデル
VirusScan for Windows 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。			

マウスドライバCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows98 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル	WindowsXP インストールモデル
マウスドライバ マウスを使用するためのドライバです。			

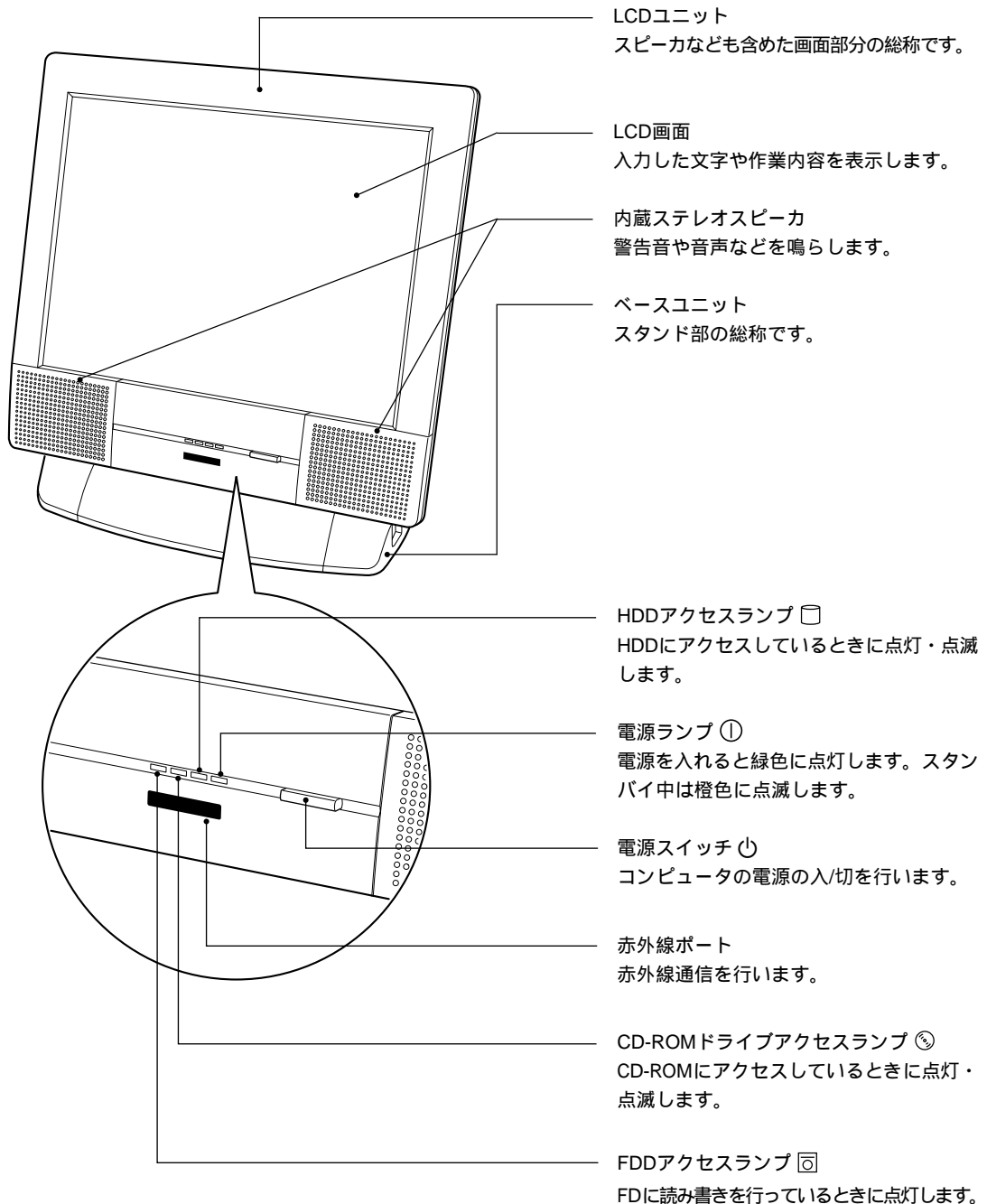
バックアップディスクを作成するソフトウェア*

ソフトウェア	Windows98 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル	WindowsXP インストールモデル
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアルファイル(本書)が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。			

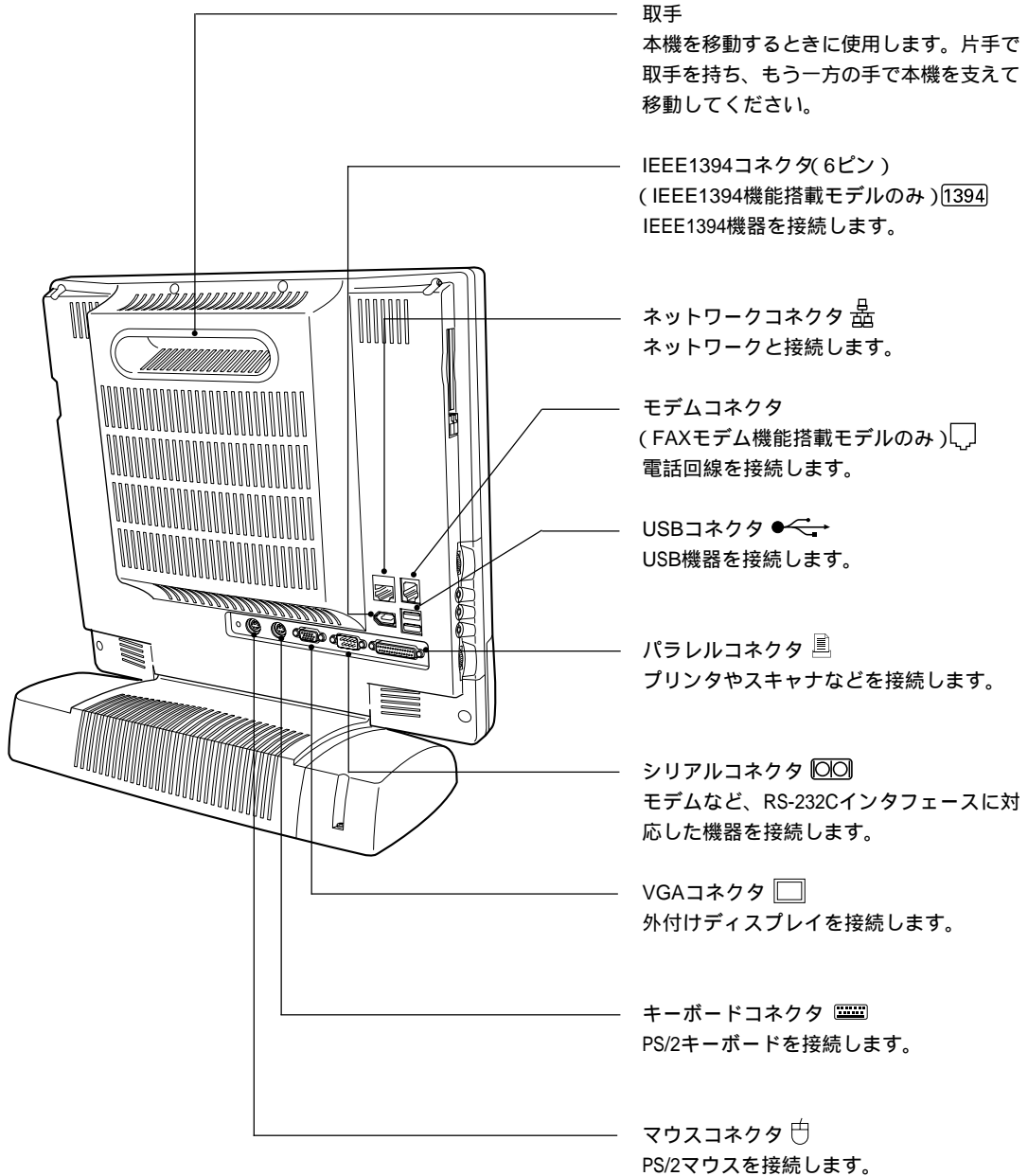
* 購入時のシステム構成によっては、このほかにもバックアップディスクを作成する必要があります。

各部の名称と働き

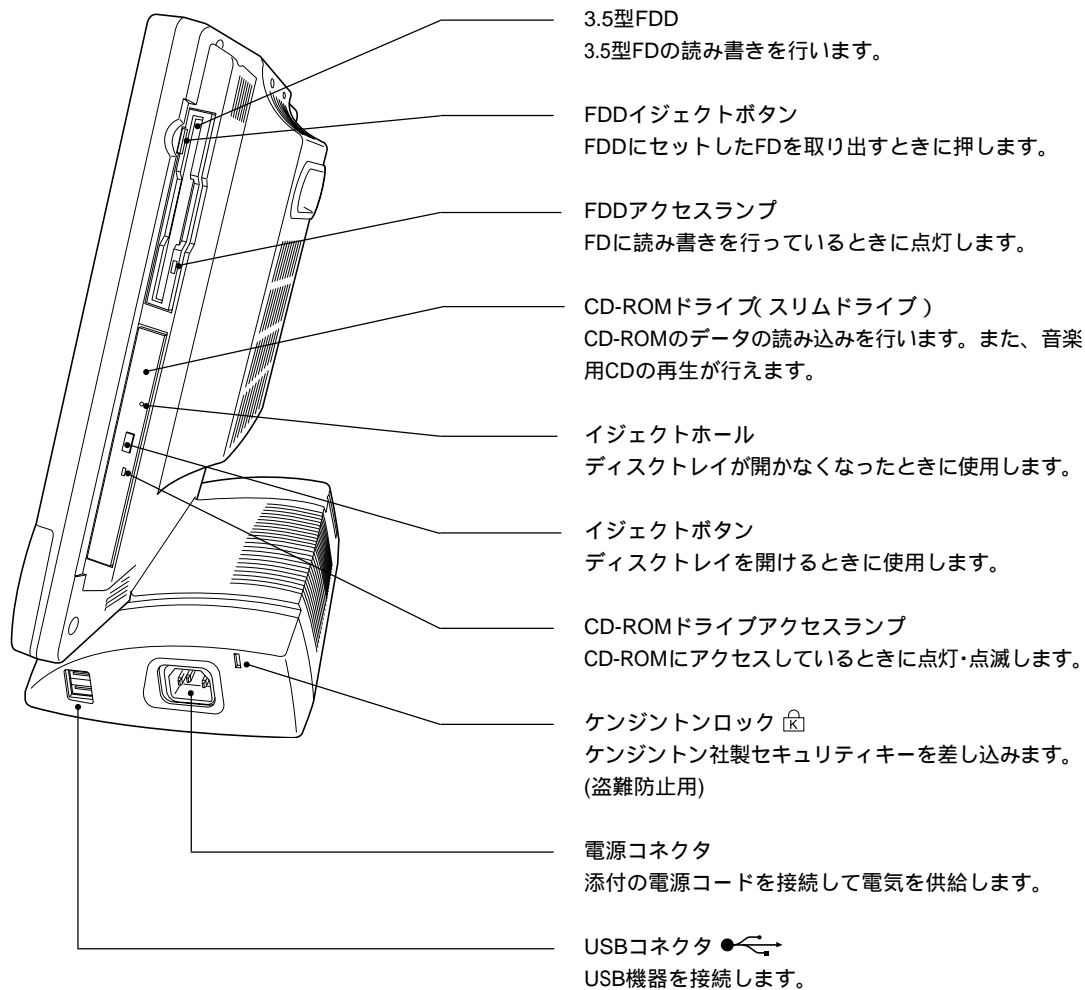
前面



背面




右側面





左側面


PCカードスロット
PC Card Standard準拠のPCカードをセットして
使用します。


PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

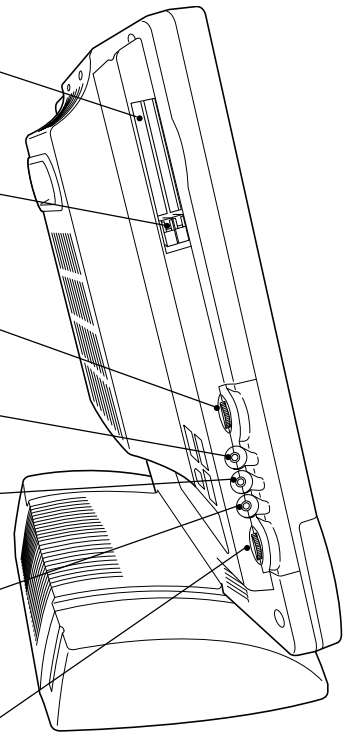
輝度調節ダイヤル 
画面の明るさを調節します。

マイク入力コネクタ 
マイクを接続します。

ライン入力コネクタ 
カセットデッキなどのオーディオ機器のライ
ン出力端子と接続します。

ヘッドフォン出力コネクタ 
スピーカやヘッドフォンを接続します。

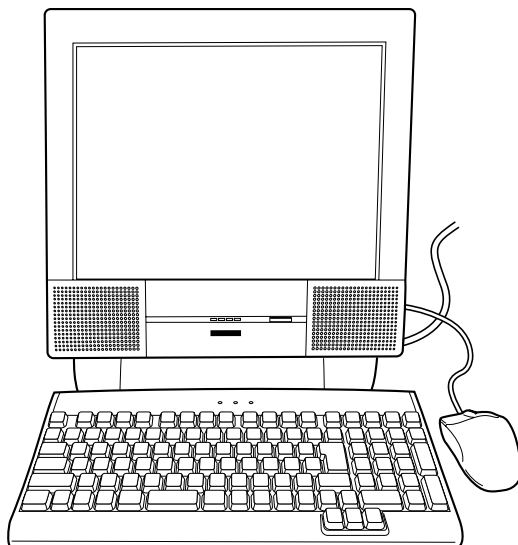
ボリューム調節ダイヤル 
スピーカの音量を調節します。



コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続する手順を説明します。

ここでの説明は、標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



注意

- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
 - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p. (10)「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

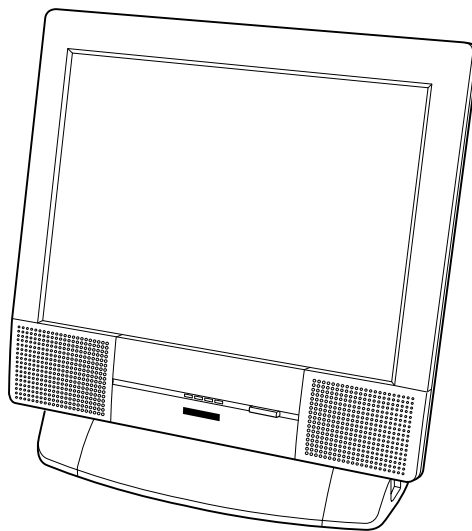


各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設 置

1

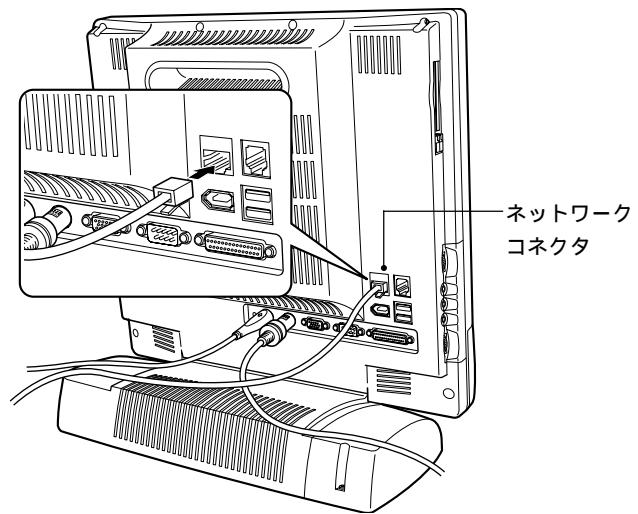
本機を丈夫で水平な場所に置きます。



ネットワークへの接続

3 ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークケーブルでネットワークと接続します。

ネットワークコネクタがカチッと音がするまで差し込みます。
ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



電話回線への接続



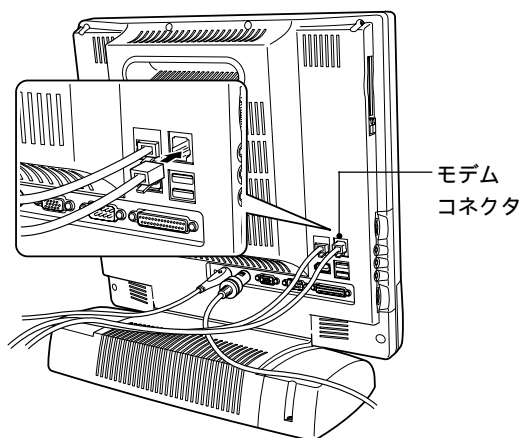
注意

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- ・ 構内交換機 (PBX)
- ・ 2線式でない回線 (ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

4 FAXモデム機能搭載モデルの場合は、電話回線への接続を行います。

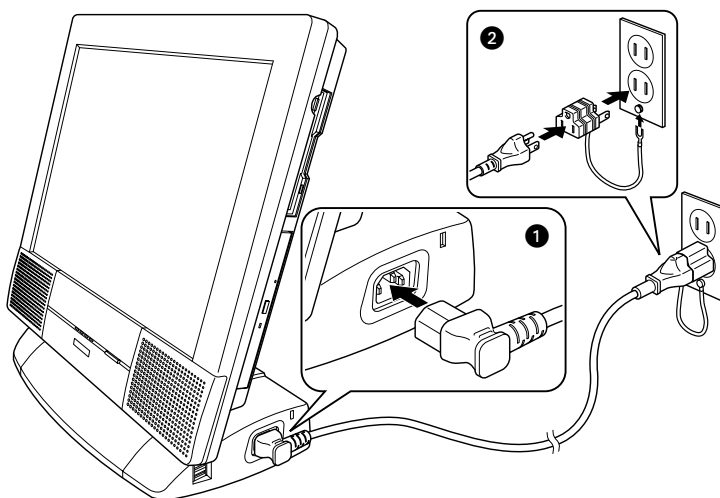
- 付属のモジュラコードをモデムコネクタにカチッと音がするまで差し込みます。
- モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。



電源コードの接続

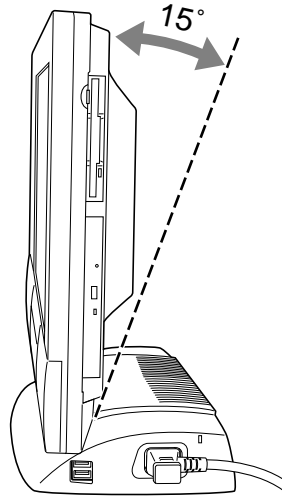
5 電源コードを接続します。

- ① 本機の電源コネクタに電源コードを接続します。
- ② 家庭用電源コンセントに、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、電源コードを接続します。
アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。

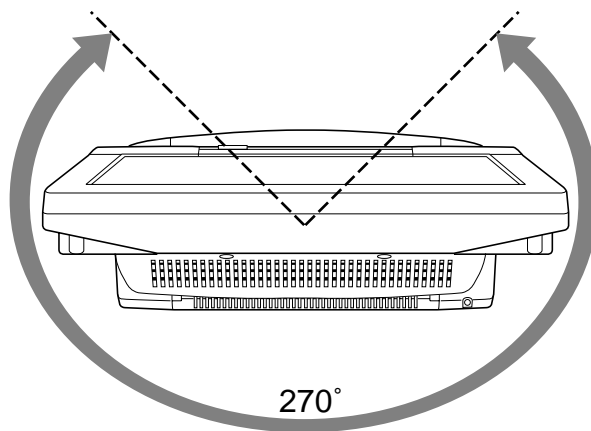


6 LCDユニットの角度と方向を調節します。

LCDユニットは、15度まで後ろに倒すことができます。



LCDユニットとベースユニットは、270度回転させることができます。



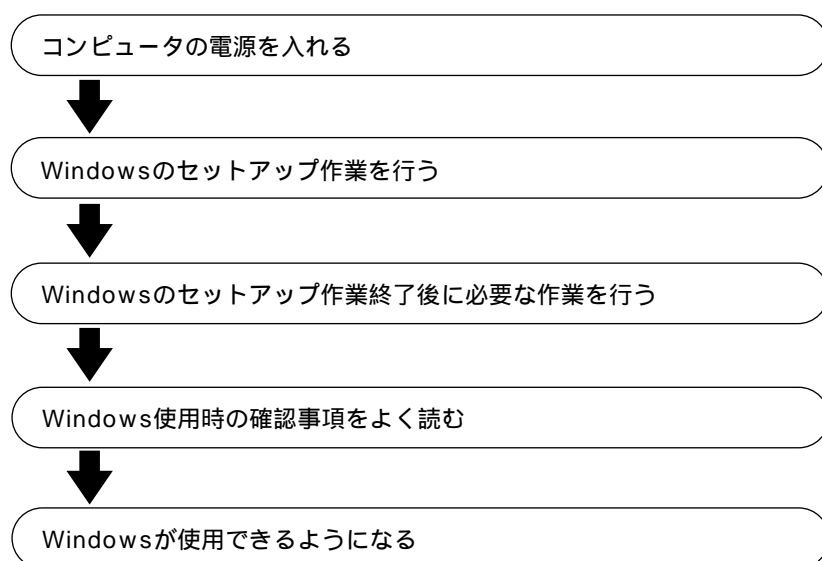
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、コンピュータを購入後に、はじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業を説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。



電源を入れる前に

Windowsの
セットアップとは

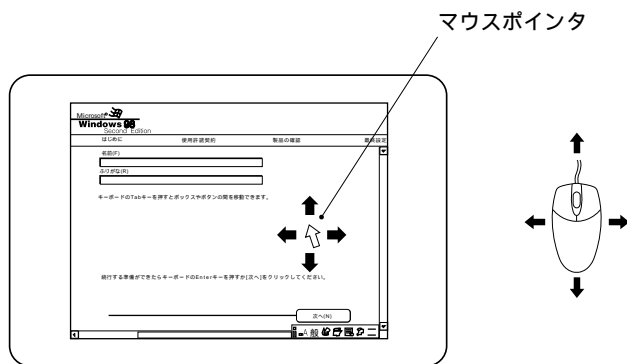
「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。
セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスと同じ動きをします。

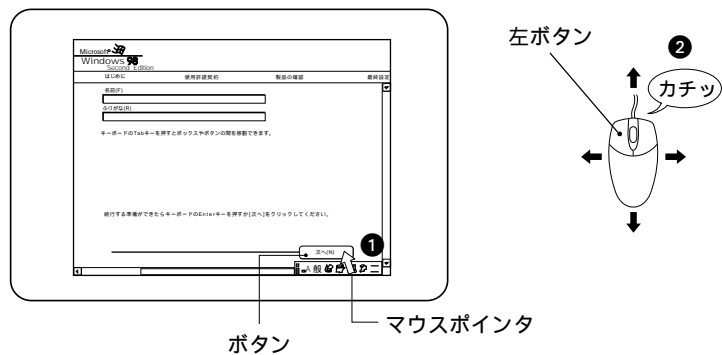


ボタンをクリックする

- ① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- ② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



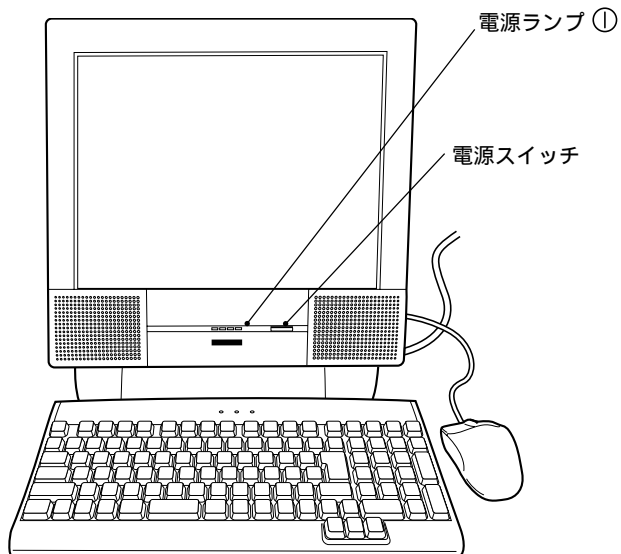
音量の調整

購入時に本体左側面のボリューム調節ダイヤルが最大になっている可能性があります。その場合、セットアップ時に必要以上に大きな音が鳴ってしまいます。セットアップを行う前に、ボリューム調節ダイヤルを小さめに設定してください。

電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。
電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認します。



- 2 画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
続けて「Windowsのセットアップ」を行います。
☞ p.20「Windowsのセットアップ」
次の調節をして画面を見やすくします。
角度 : LCDユニットを前後に動かします。
画面の明るさ : 輝度調節ダイヤルで調整します。

Windowsのセットアップ

Windows 98 インストール モデル

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ようこそ

↓ 日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

情報の収集

↓ ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
名前を入力後、**[Tab]**を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

モデムの接続

↓ FAXモデム機能搭載モデルではこの画面が表示されます。ここでは接続を行いませんので**[スキップ]**します。

使用許諾契約への同意

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

インストールの完了

↓ Windowsが正常にインストールされました。**[完了]**をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定

↓ 「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。


お知らせの確認



本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。

バックアップディスクの作成

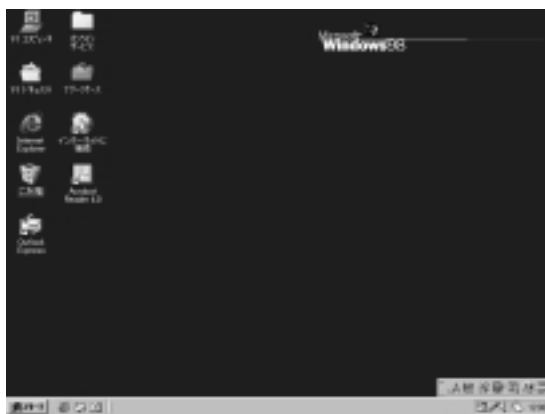
「作成するディスクセットの選択」画面に表示されたディスク名のバックアップディスクを作成します。

 p. 26「バックアップディスクの作成」



2

「Windows98セットアップ」が終了すると、Windows98のデスクトップが表示されます。



続けてp.26「セットアップ終了後の作業」に移ります。

Windows2000
インストール
モデル

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ] をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動] をクリックするとコンピュータが再起動します。

- 2 Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows 2000セットアップ」は終了です。



続けてp.26「セットアップ終了後の作業」に移ります。

WindowsXPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「WindowsXPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ] をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓ 「このコンピュータの名前」を入力します。このコンピュータをネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

パスワードの設定

↓ WindowsXP Professionalをお使いの場合はパスワードを管理者の指示に従って入力します。

インターネットへの接続

↓ ここではインターネットへの接続を行いませんので、[省略] をクリックします。

ユーザー登録

↓ ここではユーザー登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択します。

コンピュータを使用するユーザーの指定



このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

WindowsXPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

WindowsXPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「WindowsXPセットアップ」は終了です。



セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

バックアップディスクの作成



制限

バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしたり、リカバリを実行したりしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ドライバやソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。「バックアップFD作成ユーティリティ」では、購入時にHDDにインストールされているも、「リカバリCD」などの添付ディスクに登録されていない、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成します。

本機ของผู้ザーズマニュアルのPDFファイル

添付のディスク類に登録されているデバイスドライバの最新版

添付のディスク類に登録されていないデバイスドライバ

購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFDが必要です。

 p.46「FDのフォーマット」

バックアップ ディスクの作成

起動方法

次の方法で、「バックアップFD作成ユーティリティ」を起動します。

Windows98 インストールモデルの場合

Windowsセットアップ時に「バックアップFD作成ユーティリティ」が自動的に起動します。

Windowsのセットアップ中に作成しない場合は、[キャンセル]をクリックします。セットアップの後に作成するときには、[スタート] - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

Windows2000 インストールモデルの場合

[スタート] - 「プログラム」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」
を実行します。

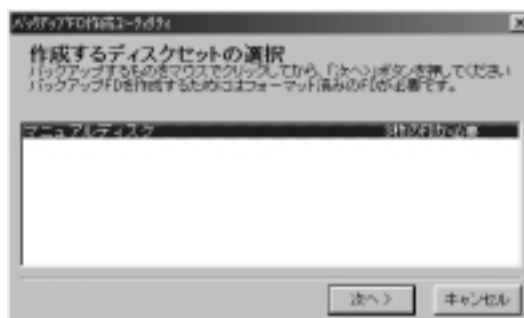
WindowsXP インストールモデルの場合

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

作成方法

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」が表示されます。




- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。
- 3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 手順2、3を繰り返して「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。
作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。
☞ p.48「ライトプロテクト(書き込み禁止)」


Windows 98 起動ディスクの作成(Windows 98のみ)

Windows98起動ディスクは、Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意しておきます。

 p.46 「FDのフォーマット」

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「起動ディスク」タブをクリックします。
- 3 FDDにFDをセットして、[ディスクの作成] をクリックします。
- 4 画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。
- 5 「Windows98 起動ディスク 1、2」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。


 p.48 「ライトプロテクト(書き込み禁止)」






セットアップブートディスクの作成(Windows2000のみ)


「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。

セットアップブートディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを4枚用意してください。

 p.46「FDのフォーマット」

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」が「C:¥>」と表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
 CD ¥BOOTDISK (¥ は、スペースを意味します。)
 「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
 ① 次のとおり入力して  を押します。
 C:
 ② 次のとおり入力して  を押します。
 CD ¥ (¥ は、スペースを意味します。)
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
 MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら  を押します。
- 5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。


- 6 画面の指示に従い4枚目まで作成します。
作成したディスクは、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。
 p.48「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器の説明書や、ネットワーク管理者の指示に従ってください。


FAXモデムの設定

FAXモデム機能搭載モデルでFAXモデム機能を使用してインターネット接続を行う場合は、FAXモデムの設定を行います。

 p.76「インターネットに接続するには」

赤外線通信の設定

赤外線通信機能を使用する場合は機能を有効に設定する必要があります。

 p.57「赤外線通信を使用可能にする」

VirusScan for Windowsのインストール

購入時には、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

 『VirusScan for Windowsをご使用前に』

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項の確認を行ってください。

Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が動き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうように注意しましょう。

 p. 92「省電力機能を使う」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。

電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

ボリューム調節ダイヤル

上に回すと小さく、下に回すと大きくなります。

「スピーカ」アイコン(Windows98/Windows2000)

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。

「スピーカ」アイコン



システム音量の調整(WindowsXP)

[スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「システム音量を調整する」をクリックして「音量」タブの「デバイスの音量」で調整します。

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、キーボードマウスの操作や電源スイッチでもとに戻ります。

 p.92「省電力機能を使う」

電源ランプの表示

コンピュータの動作状態は、電源ランプによって確認できます。

 p.92「省電力機能を使う」

動作状態	電源ランプの表示
通常モード、HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	橙点滅
休止状態、電源切断時	消灯

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

Windows98インストールモデルの場合 : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000インストールモデルの場合 : C:\¥I386 (Iはアルファベット)

WindowsXPインストールモデルの場合 : C:\¥WINDOWS¥I386 (Iはアルファベット)

上記フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。

これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDDは、次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
Windows98 Windows2000	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
WindowsXP	すべての領域 (Cドライブ)	NTFS

デスクトップクリーンアップ(WindowsXPのみ)

WindowsXPの場合、セットアップを実行してから7日目以降にWindowsXPを起動すると、次のメッセージが表示される場合があります。

使用していないアイコンがデスクトップにあります。...

このメッセージはデスクトップ上に未使用のアイコンがあると表示されます。この場合はメッセージをクリックして「デスクトップクリーンアップウィザード」を起動してください。画面のメッセージに従って実行すると、不要なアイコンを選択してデスクトップ上から削除することができます。

インタラクティブトレーニング(WindowsXPのみ)

WindowsXPには「ステップバイステップインタラクティブ」がインストールされています。ステップバイステップインタラクティブはWindowsXPの使い方を画面上で分かりやすく説明します。

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行するには、[スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

JAVA VMのインストール(WindowsXPのみ)

インターネットサイトを閲覧する場合に、サイトによっては「JAVA VMをインストールしてください。」といったメッセージが表示されることがあります。このようなサイトを閲覧するためにはJAVA VMが必要です。次の手順でインストールを行ってください。

- 1 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥JAVAVM¥MSJAVX86
(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 4 「Microsoft VMをインストールしますか」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 「次の使用許諾契約をお読みください。……」と表示されたら、内容を確認し [はい]をクリックします。
- 6 「インストールを完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
- 7 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。……」と表示されたら、[はい]をクリックします。
Windowsが再起動するとJAVA VMのインストールは終了です。

JAVA VMの設定は、「Internet Explorer」を起動して次の場所で確認できます。
「ツール」-「インターネットオプション」-「詳細設定」タブの「Microsoft VM」項目

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源を切ってもう一度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDなどのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は、電源を切ってもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」にチェックが付いている状態で[OK]をクリックします。
- 3 Windows 98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
- 3 Windows2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 接続している周辺機器の電源を切ります。

WindowsXPの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsXPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-[終了オプション]をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で「電源を切る」をクリックします。
- 3 WindowsXPが終了し、自動的に電源が切れます。
- 4 接続している周辺機器の電源を切ります。

WindowsXP 終了時の注意

WindowsXPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]-[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、保存されていないデータはすべて消失します。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの リセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

Windows98 : [スタート]-「Windowsの終了」-「再起動する」を選択

Windows2000 : [スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択

WindowsXP : [スタート]-[終了オプション]-[再起動]を選択

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl + Alt + Delete を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやFDDなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

マウスを使う

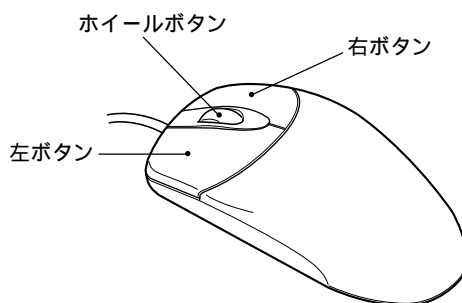
本機に添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。ホイール機能を使用するには、専用の「マウスドライバ」のインストールが必要です。マウスドライバは購入時にインストールされています。

マウスの操作



制限

アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

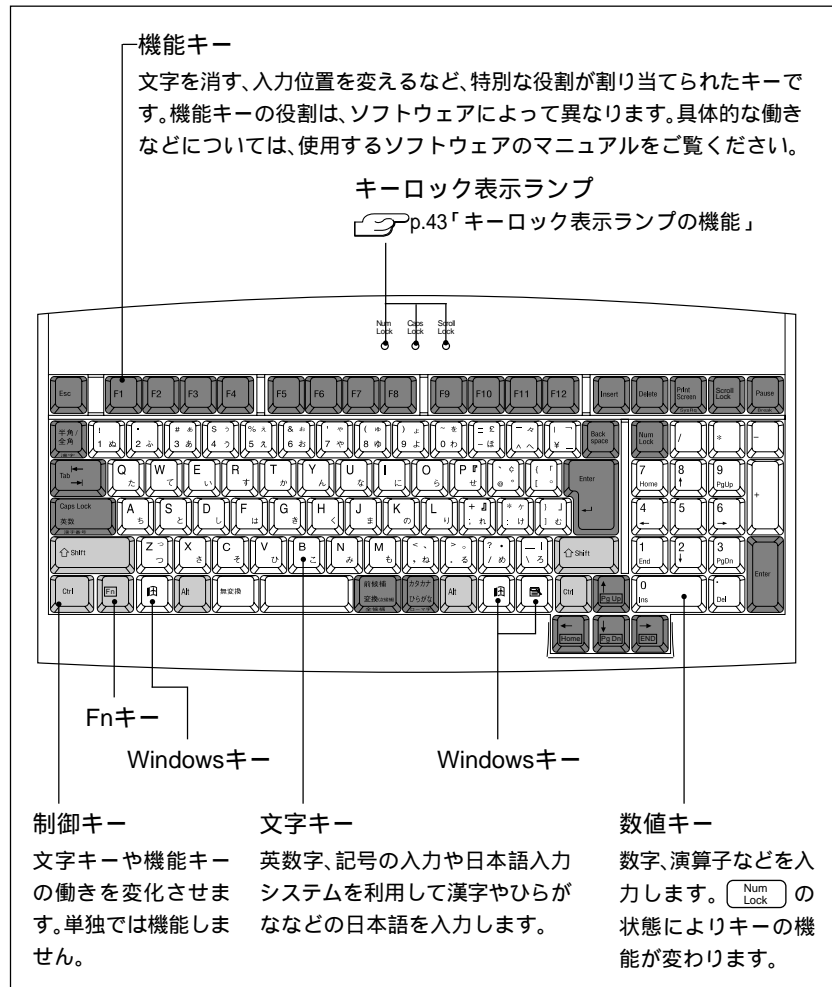
マウスボタンの設定や使用環境の変更は、デスクトップの右下にある「マウス」アイコンをダブルクリックし、「マウスのプロパティ」で行います。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、日本語対応106コンパクトキーボードです。キーボードの接続方法については、p.11「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

106個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



キートップに印字された文字と実際に入力される文字が異なる場合もあります。

文字を入力するには

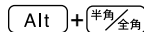
文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。キートップには、複数の文字が印字されており、入力モードによって入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード

- ローマ字入力: キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
- かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え 直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。



日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行います。

<Windows2000の場合>

<WindowsXPの場合>

- ① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。
- ② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。
- ③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。








記号の入力

インターネットのアドレスやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、直接入力モードで次のキーを押して入力します。

入力記号	入力方法
(コロン)	
(セミコロン)	
(ハイフン)	
(スラッシュ)	
@(アットマーク)	
(チルダ)	 + 
(アンダーバー)	 + 





キーロック表示ランプの機能

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え :  を押します。 点灯時 : 数値を入力 消灯時 : カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの大文字/小文字の切り替え 切り替え :  +  を押します。 点灯時 : 大文字を入力 消灯時 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え :  を押します。

Fnキーと組み合わせて使うキー



次のキーは、Fnキーと組み合わせて使用することができます。

Fn +  PgUp	PgUp)(Page Up)の役割をします。
Fn +  Home	Home)の役割をします。
Fn +  PgDn	PgDn)(Page Down)の役割をします。
Fn +  End	End)の役割をします。

Windowsキーの働き









Windowsキーの種類と機能

2つのWindowsキーは、次の働きをします。

Windowsキー	機能
	画面左下の「スタート」をクリックするのと同じ働きをします。
	マウスの右クリックと同じ働きをします。

Windowsキーと組み合わせて使うキー

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機能
 + F1	Windowsのヘルプが表示されます。
 + E	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + F	「検索:条件=すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 + Ctrl + F	「検索:コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + M	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
Shift +  + M	最小化されているウィンドウをすべて元のサイズに戻します。
 + R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + Tab	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

本機の右側面には、FDDが内蔵されています。

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機のFDDでは次のFDを使用できます。

3.5型2HD：1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD：720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し



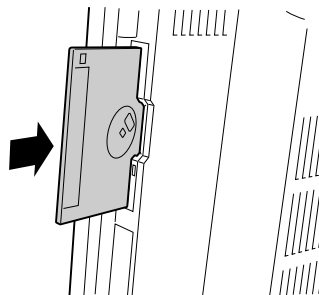
制限

FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしたりしないでください。データが破壊されるおそれがあります。

コンピュータの電源を切る場合やリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

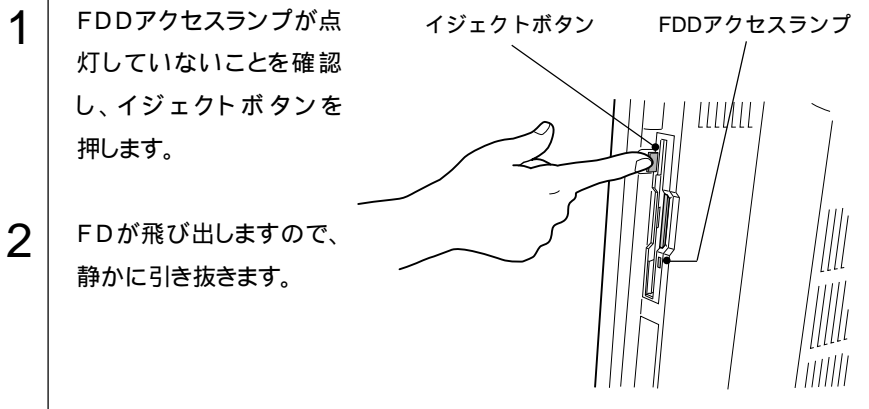
セット方法

- 1 ラベル面を前にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。



背面側から見た図

取り出し方法



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合は、フォーマットが必要です。また登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。

メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

WindowsXPでは720KBのFDをフォーマットできません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。



制限

Windows2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2~5を繰り返してください。

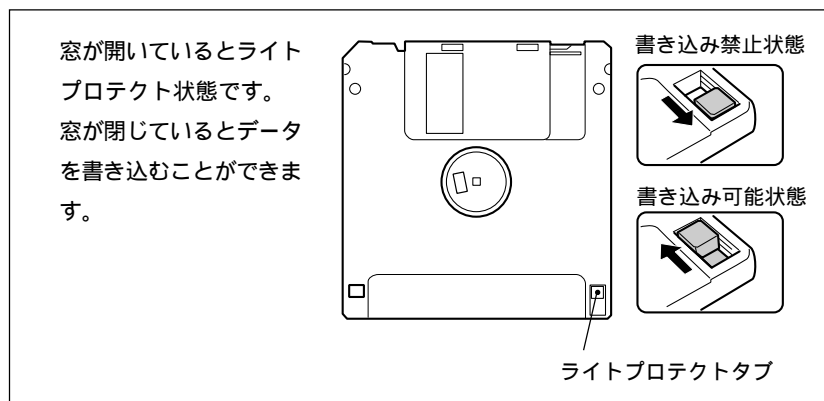
- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
WindowsXPでは[スタート]-「マイコンピュータ」をクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は[OK]をクリックします。
- 4 「フォーマット結果」または「フォーマットが完了しました。」と表示されたら、[閉じる]または[OK]をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3~4をくり返します(Windows2000以外)。
- 5 [閉じる]をクリックします。

データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複製して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データを書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDはライトプロテクトをしておくとう安心です。



HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつかけたりしてショックを与えるとHDDが破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。

データのバックアップ

HDD内の重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。専用のバックアップソフトウェアを使用して、複数のファイルを一度にバックアップする。

購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
Windows98 Windows2000	すべての領域 (Cドライブ)	FAT 32
WindowsXP	すべての領域 (Cドライブ)	NTFS

CD-ROMドライブを使う

本機の右側面には、CD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブはデータの入ったデータCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

本機に装着されているCD-ROMドライブは、メディアの認識に時間がかかることがあります。故障ではありません。また、CD-ROMの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

本機には、CD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブなどのドライブが装着されているモデルがあります。メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方法は、CD-ROMドライブと同じです。詳しい使用方法は、各ドライブ装置に添付のマニュアルをご覧ください。

CD-ROMのセットと取り出し



制限

CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

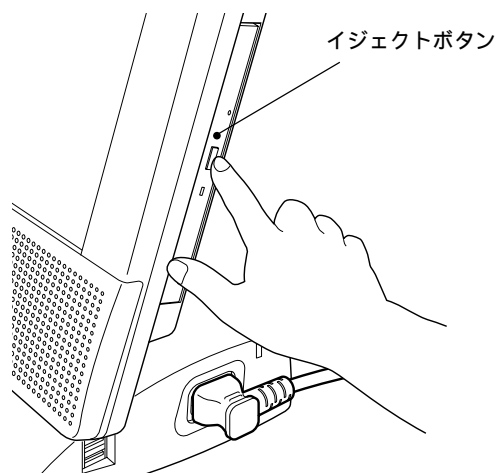
ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。CD-ROMのデータが読めなくなります。

必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

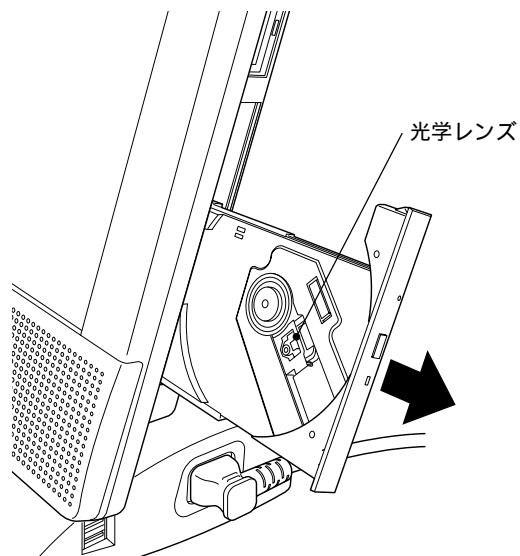
セット方法

1

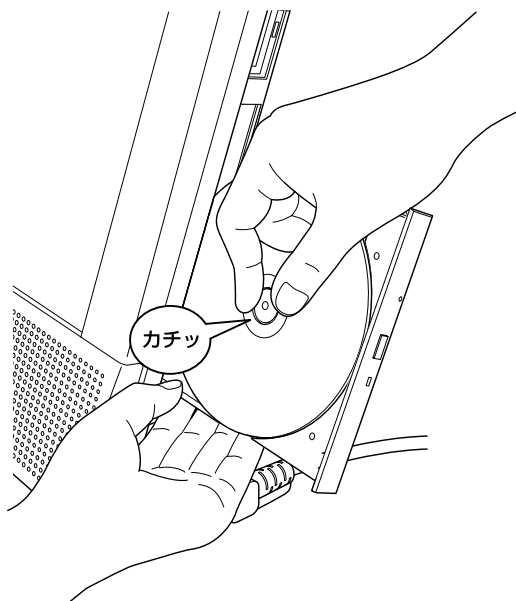
イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。



- 2 ディスクトレイを静かに引き出します。



- 3 印刷面を表にしてCD-ROMをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまで押し込みます。押し込むときは、片方の手でディスクトレイの裏側を支えます。



- 4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

取り出し方法

- 1 CD-ROMドライブアクセスランプが点灯していないことを確認します。
- 2 イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。
- 3 CD-ROMをディスクトレイから取り出します。
- 4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。


強制的なメディアの取り出し

次のような場合には、強制的にメディアを取り出すことができます。

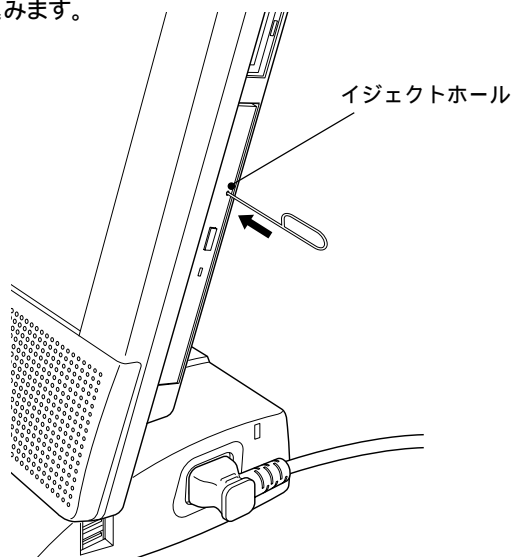
CD-ROMドライブが故障して、メディアが取り出せない場合

メディアをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、コンピュータの電源を切りま
す。

 p.35「電源の切り方」

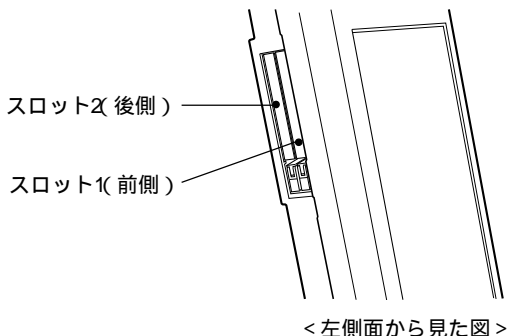
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたよ
うなもの)を差し込みます。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出しま
す。

PCカードを使う

本機の左側面には、PCカードスロットが、2スロット装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIおよびIIIのPCカードを装着することができます。同時に装着可能なPCカードは、Type II × 2枚またはType III × 1枚です。各スロットの仕様は、次のとおりです。




スロット		装着可能なサイズ	仕様
前側	スロット1	Type II	CardBus対応
後側	スロット2	Type IIまたはType III	CardBus対応

PCカード使用時の制限

CardBus対応のPCカードと赤外線通信機能やECP対応のデバイスを同時に使用できません。赤外線通信機能またはECP対応のデバイスを使用する場合には、CardBus対応のPCカードを取り外してください。

赤外線通信機能を「FIR」に設定した場合、CardBusに対応していないPCカードを同時に2枚使用できません。

FAXモデムカードやネットワークカードなどは、使用途中に電源の供給が停止されると不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力機能を使用しないでください。

 p.92「省電力機能を使う」

PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴りません。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。

PCカードによっては専用のデバイスドライバが必要です。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

PCカードの形状によってはType IIでもスロット1に装着できないカードがあります。その場合はスロット2に装着してください。

PCカードのセットと取り外し



制限

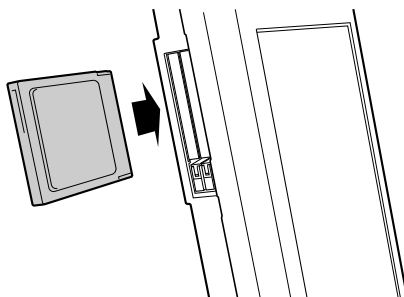
PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、PCカードが壊れることがあります。

PCカードの抜き差しは省電力モード時には行わないでください。システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

PCカードは、電源が入っている状態で抜き差しすることができます。

PCカードの セット

- 1 使用するPCカードがどのスロットで使用可能か確認します。
FAXモデムカードを「スロット1(前側)」にセットする場合は、カードのモジュラジャックに電話回線を接続した状態でセットしてください。
- 2 PCカードをPCカードスロットに挿入します。
PCカードの表面を前に向けて奥までしっかりと押し込みます。



左側から見た図

- 3 コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4

認識されるとPCカードが使用できます。
正しくセットされると認識音が鳴り、タスクバーにPCカードアイコンが表示されます。



< Windows98 >



< Windows2000 >



< WindowsXP >

PCカードによっては、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中にWindowsのCDを要求された場合は、次のフォルダを指定してください。

- Windows98 : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS
 - Windows2000 : C:\¥1386(¥1386のIはアルファベット)
 - WindowsXP : C:\¥WINDOWS¥1386(¥1386のIはアルファベット)
- いずれも、上記フォルダがCドライブに登録されている場合

PCカードの内容を確認するには

「PCカードのプロパティ」画面で確認します。

Windows98

タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。

Windows2000/WindowsXP

タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの取り出し」画面で「プロパティ」をクリックします。



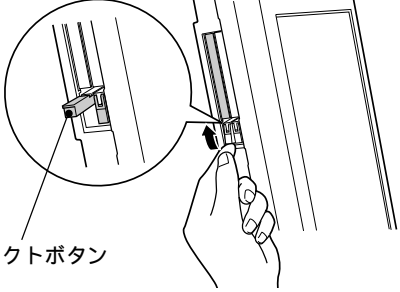
< Windows98の場合 >

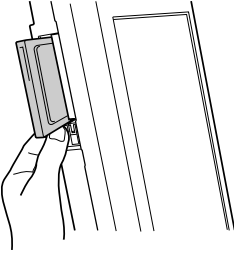
PCカードの
取り外し



PCカードの取り外し手順は、次のとおりです。

本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。
火傷に注意して取り外してください。

- 1 「PCカード終了処理」を行うか、または電源を切ります。
PCカード終了処理
 - ① タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。
 - ② 取り外すPCカードを選択して「停止」をクリックします。
 - ③ 「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示された場合は、「OK」をクリックします。
 - ④ 「...は、安全に取り外すことができます。」と表示されたらPCカードの終了処理は完了です。
- 2 取り外すPCカードスロットのイジェクトボタンを起こします。

イジェクトボタン
- 3 イジェクトボタンを押します。
Windowsの動作中は、認識音が鳴ります。
カードが勢いよく飛び出すことがあるので
落とさないように注意してください。
- 4 PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。
取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

赤外線通信を使う

本機の正面中央には、赤外線通信ポートが装備されています。本機の赤外線通信ポートと、赤外線通信機能を持つ機器の間で、データのやりとりが行えます。赤外線通信は、ケーブルを接続せずに簡単にデータ通信を行うことができます。赤外線通信を行うためには、通信用のソフトウェアが必要です。本機では「ワイヤレスリンク(Windows2000/WindowsXP)」または「赤外線通信機能(Windows98)」を使用します。通信は、コンピュータ同士で同じソフトウェアを使用する必要があります。



制限

赤外線通信を使用可能にすると、CardBusに対応していないPCカードを2枚同時に使用することができません。

本機の赤外線通信機能は、次の仕様に対応しています。

仕様(通信モード)	特長	使用するソフトウェア例
FIR(Fast InfraRed)	通信速度4Mbps IrDA1.1規格	Windows2000/WindowsXPのワイヤレスリンク
SIR(Serial InfraRed)	通信速度115.2Kbps IrDA1.0規格	Windows98の赤外線通信機能

赤外線通信を使用可能にする

赤外線通信を行う場合は、次の設定変更や準備が必要です。

SCUの赤外線に関する設定を有効にする



Windows起動時に赤外線ポートを検出




FIRドライバのインストール(Windows98/FIRで使用する場合のみ)



赤外線通信の詳細設定(FIRで使用する場合のみ)

SCUの設定を
変更する

赤外線通信を行うためには、SCUの「Components」項目を次のように変更します。
 p.120「Componentsに関する設定」

SCUの項目		購入時の設定	SIRで使用	FIRで使用
COM Ports	COM B I/O Settings	Disabled	COM2, 2F8, IRQ3	
	Mode Setting For COM B		IrDA	FAST IR
	DMA Setting For Fast IR			DMA1

SCUの設定変更が終了したら、SCUの設定を保存して終了します。

Windows起動時に
赤外線ポートを
検出

SCUを終了すると、Windowsの起動時に、自動的に次の赤外線ポートが検出され、ドライバのインストールが行われます。

	SIR	FIR
Windows98	赤外線PnPシリアルポート	IrDA v3.0 Fast Infrared Port
Windows2000	内蔵赤外線デバイス	IrDA高速赤外線ポート
WindowsXP	Built-in Infrared Device	IrDA高速赤外線ポート

FIRドライバの
インストール
(Windows98/
FIRで使用する
場合のみ)

Windows98でFIRモードで赤外線通信を行うためには、FIRドライバのインストールが必要です。FIRドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、「IrDA v3.0 Fast Infrared Port」をダブルクリックします。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックします。
- 6 「デバイスドライバの更新ウィザード」画面で「次のデバイスの更新されたドライバを検索します:IrDA v3.0 Fast Infrared Port」と表示されたら[次へ]をクリックします。

- 7 「現在使用しているドライバより...」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。
- 8 「検索場所の指定」にチェックを付けて、次のように入力して[次へ]をクリックします。
D:¥FIR
- 9 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。:IrDA Fast Infrared Port」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 10 「...インストールが完了しました。」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 11 「IrDA Fast Infrared Portプロパティ」画面と「システムのプロパティ」画面を閉じてからWindowsを再起動します。
Windowsが再起動すると、FIRドライバのインストールは終了です。

詳細設定（FIRでFIRモードで赤外線通信を行うためには、次の設定が必要です。
使用する場合）

Windows98の場合

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「ネットワーク」をダブルクリックします。
- 2 「ネットワークの設定」タブの「IrDA Fast Infrared Port」をダブルクリックし、「IrDA Fast Infrared Portのプロパティ」を開きます。
- 3 「詳細設定」タブの「プロパティ」から「Infrared Transceiver A」または「Infrared Transceiver B」を選択し、「値」から「Vishay 6101E/6501E」を選択して[OK]をクリックします。
「Infrared Transceiver A」または「Infrared Transceiver B」は、通信を行う2台のコンピュータで同じ値を選択してください。
- 4 「ネットワーク」画面を閉じて、「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、[はい]をクリックします。
Windowsが再起動すると、設定は終了です。

Windows2000の場合

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「ワイヤレスリンク」をダブルクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブの「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックし、「IrDA高速赤外線ポートのプロパティ」を開きます。
- 3 「詳細設定」タブの「プロパティ」から「赤外線ランシーバA」または「赤外線ランシーバB」を選択し、「値」から「Vishay TFDS-6500」を選択して[OK]をクリックします。
「赤外線ランシーバA」または「赤外線ランシーバB」は、通信を行う2台のコンピュータで同じ値を選択してください。
- 4 「ワイヤレスリンク」画面を閉じます。
[スタート]-「シャットダウン」-「再起動」からWindowsを再起動します。
Windowsが再起動すると、設定は終了です。

WindowsXPの場合

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「ワイヤレスリンク」をクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブの「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックし、「IrDA高速赤外線ポートのプロパティ」を開きます。
- 3 「詳細設定」タブの「プロパティ」から「赤外線ランシーバA」または「赤外線ランシーバB」を選択し、「値」から「Vishay TFDS-6500」を選択して[OK]をクリックします。
「赤外線ランシーバA」または「赤外線ランシーバB」は、通信を行う2台のコンピュータで同じ値を選択してください。
- 4 「ワイヤレスリンク」画面を閉じます。
[スタート]-[終了オプション]-[再起動]をクリックしてWindowsを再起動します。
Windowsが再起動すると、設定は終了です。

赤外線通信の実行

通信時の注意

赤外線通信機器の間に障害物を置かないでください。

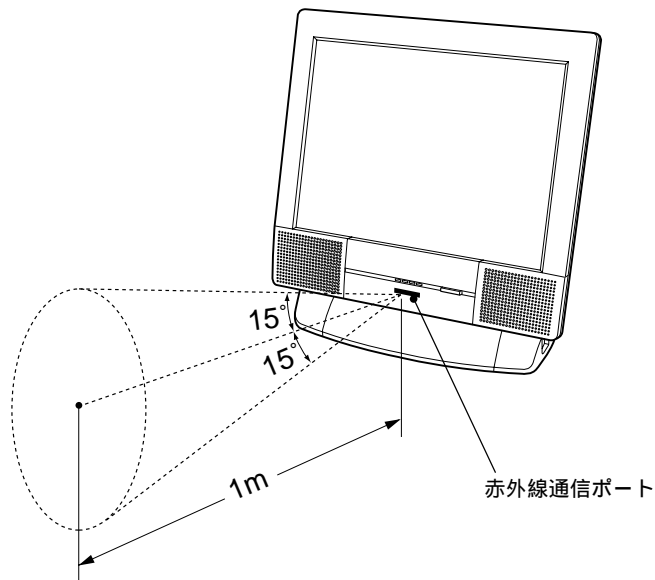
赤外線通信中は、赤外線通信機器を動かさないでください。通信が切断されることがあります。

直射日光や蛍光灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たらないようにしてください。誤動作をすることがあります。

オーディオ機器のリモコンやワイヤレスヘッドホンなどを赤外線通信ポートに向けしないでください。誤動作をすることがあります。

通信可能な距離

赤外線通信を行うときは、お互いの赤外線通信ポートが真正面に向い合うように設置して、通信してください。2つの赤外線通信ポートの位置は1m以内で、角度は垂直水平共に15度以内に設置します。



赤外線通信の実行
(Windows2000/
WindowsXP)

Windows2000/WindowsXPの「ワイヤレスリンク」を使った赤外線通信は、次のとおり行います。

- 1 2台の赤外線通信ポートを通信可能範囲に設置します。
- 2 赤外線ポートを検出すると、デスクトップに「ワイヤレスリンク」アイコンが表示されます。(WindowsXPの場合はタスクバーに表示されます。)
- 3 送信側の「ワイヤレスリンク」をダブルクリックします。
- 4 送信するファイルを指定して[送信]をクリックします。
- 5 受信側に、「このファイルを受信しますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。
- 6 「・・・受信が完了しました。」と表示されたら[閉じる]をクリックします。
受信されたファイルは、デスクトップ上に保存されます。

赤外線通信の実行
(Windows98)

Windows98の赤外線通信機能を使った赤外線通信は、次のとおり行います。

- 1 通信を行う2台のコンピュータの[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「赤外線モニタ」-「オプション」タブで「赤外線通信を可能にする」にチェックを付け、適用をクリックします。
- 2 2台の赤外線通信ポートを通信可能な位置に設置すると、お互いのポートを検出します。
- 3 送信側のコンピュータの「マイコンピュータ」-「赤外線を受信側」-[ファイルの送信]をクリックします。
- 4 送信するファイルを指定して送信します。
送信されたファイルは、受信側のコンピュータの「赤外線を受信側」の[受信したファイル]に登録されます。

表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。
本機で表示可能な表示装置は、次のとおりです。

LCD画面(本機のLCD画面)

外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)

LCDユニット

本機は、15型TFT XGAカラーLCD(液晶ディスプレイ)を搭載しています。



LCD画面表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性によって起きるもので、故障ではありません。


液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して約79万画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。

色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。

Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は、市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景が中間色の場合に発生しやすくなります。

明るさの調整

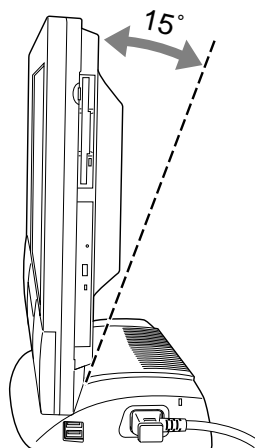
画面の明るさの調節は、輝度調節ダイヤルで行います。

 p. 10「左側面」

角度の調節

LCDユニットは、約15度まで後に倒すことができます。角度を調節する際には無理な力を加えないでください。

LCDユニットとベースユニットは、左右にも約270度回転できます。

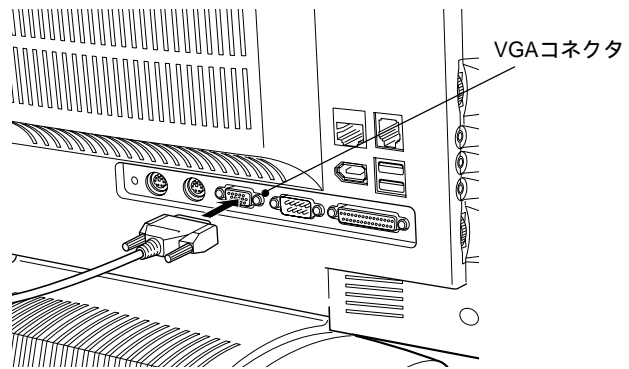


外付けディスプレイ

ディスプレイの
接続


本機背面のVGAコネクタに外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)を接続することができます。

コンピュータと外付けディスプレイの電源が切れている状態で、本機背面のVGAコネクタに外付けディスプレイを接続します。



外付けディスプレイに表示するには

本機では、外付けディスプレイが接続されているときに、次のドライバーモードで表示ができます。

ドライバーモード	表示
シングルモード	LCD画面または外付けディスプレイのどちらか一方に表示します。
ミラーモード	LCD画面と外付けディスプレイに同じ画面を表示します。
マルチモニターモード (Windows98/WindowsXPのみ)	大きなひとつの画面をLCD画面と外付けディスプレイで分割して仮想的に並べた表示ができます。 2つのアプリケーションを別々の画面で表示できます。  p. 66 「マルチモニターモードで表示するには」

表示できる解像度と色数については、次章「解像度や表示色を変更する」をご覧ください。

ドライバーモードの切り替え

次の画面で、ドライバーモードの選択と設定を行います。

Windows98

[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「画面」 - 「設定」タブ - [詳細]
- 「ディスプレイモード」タブ

Windows2000

[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「画面」 - 「設定」タブ - [詳細]
- 「ユーティリティマネージャ」タブ - [ドライバモードの設定]

WindowsXP

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップの表示とテーマ」 - 「解像度を変更する」 - [詳細設定] - 「ユーティリティマネージャ」タブ - [ドライバモードの設定]



< Windows98の場合 >

チェックが付いていると、接続状態を自動的に認識します。そのため外付けディスプレイが接続されていない場合のドライバーモードは、「シングルモード」のみになります。

マルチモニター
モードで表示する
には

Windows98/WindowsXPではマルチモニターモードで表示できます。次の設定を
して再起動します。



① マルチモニターモード
を選択します。

サポートしていません。
初期設定のまま使用
してください。
(Windows98のみ表示)

② 表示装置を選択し
ます。

LCD2 : LCD画面

VGA1 : 外付けディス
プレイ

③ [適用]をクリック
します。

< Windows98の場合 >

再起動後に「画面のプロパティ」-「設定」タブを開くと、次の画面が表示されます。



ディスプレイの位置関係を示しています。「1」(プライマリ)の右側を「2」(セカンダリ)が表示しています。「2」をドラッグして位置を変更することができます。

解像度を変更するときに、変更したいディスプレイを選択します。

< Windows98の場合 >

マルチモニターを有効にする

チェックマークが付いているとマルチモニターモードが有効になります。「ディスプレイ 2」を選択してチェックを付け、**適用** をクリックするとマルチモニターモードになります。

切り替え時の制限
(Windows98/
Windows2000)

外付けディスプレイを接続した状態で、ドライバーモードをミラーモードからLCDのシングルモードに変更する場合、色数が256色に設定されていると、LCD画面だけでなく、外付けディスプレイにも表示されてしまいます。LCD画面の色数を256色以外に設定してください。

解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更方法と表示できる解像度について説明します。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。



参考

Safe(セーフ)モードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safe(セーフ)モードで起動して再設定を行ってください。

☞ p.132「LCDの不具合」

解像度や表示色の変更方法

Windows98/
Windows2000
の場合

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「画面の色」の項目を設定したい内容に変更します。



< Windows2000の場合 >

- 4 項目を変更したら、「適用」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

WindowsXP
の場合

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。
- 2 「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。

解像度を設定します。

表示色を設定します。

- 3 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

ミラーモードでは、LCD画面と外付けディスプレイが同じ設定でのみ表示できます。マルチモニターモード(Windows98/WindowsXPのみ)では、LCD画面と外付けディスプレイが別の解像度で表示できます。

☞ p.65「外付けディスプレイに表示するには」



外付けディスプレイの解像度と表示色は、使用するディスプレイの仕様によって表示できない場合があります。

解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

Windows98/
Windows2000
の場合

シングルモード

表示色 ディスプレイ 解像度	256色		High Color(16ビット)		True Color(32ビット)	
	LCD	外付け	LCD	外付け	LCD	外付け
640 x 480						
800 x 600						
1024 x 768						
1280 x 1024	×		×		×	
1600 x 1200	×		×		×	×
1920 x 1440	×	(*1)	×	(*1)	×	×

ミラーモード

表示色 ディスプレイ 解像度	256色		High Color(16ビット)		True Color(32ビット)	
	LCD	外付け	LCD	外付け	LCD	外付け
640 x 480						
800 x 600						
1024 x 768						×

マルチモニターモード(LCDがセカンダリーの場合)

表示色 ディスプレイ 解像度	256色		High Color(16ビット)		True Color(32ビット)	
	LCD	外付け	LCD	外付け	LCD	外付け
640 x 480						
800 x 600						
1024 x 768					×	(*1)
1280 x 1024	×		×	(*2)	×	×
1600 x 1200	×		×	×	×	×
1920 x 1440	×	(*1)	×	×	×	×

*1 : CRTのリフレッシュレート 60Hzまで表示可能

*2 : CRTのリフレッシュレート 75Hzまで表示可能

*1および*2 以外は85Hz以上で表示可

WindowsXP
の場合

シングルモード

表示色 ディスプレイ 解像度	中(16ビット)		最高(32ビット)	
	LCD	外付け	LCD	外付け
800 × 600				
1024 × 768				
1280 × 1024	×		×	
1600 × 1200	×		×	×
1920 × 1440	×	(*1)	×	×

ミラーモード

表示色 ディスプレイ 解像度	中(16ビット)		最高(32ビット)	
	LCD	外付け	LCD	外付け
800 × 600				
1024 × 768				×

マルチモニターモード(LCDがセカンダリーの場合)

表示色 ディスプレイ 解像度	中(16ビット)		最高(32ビット)	
	LCD	外付け	LCD	外付け
800 × 600				
1024 × 768			×	(*1)
1280 × 1024	×	(*2)	×	×

*1: CRTのリフレッシュレート 60Hzまで表示可能

*2: CRTのリフレッシュレート 75Hzまで表示可能

*1および*2 以外は85Hz以上で表示可

サウンド機能を使う

本機には、AC 97対応のサウンド機能(内蔵ステレオスピーカおよび音声の入出力するためのコネクタ)が搭載されています。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となるおそれがあります。

内蔵スピーカ

本機の前面には、ステレオスピーカが内蔵されています。この内蔵ステレオスピーカから音声を出力します。スピーカの音量の調節は、次の方法で行います。

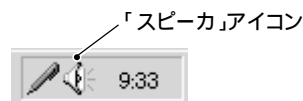
ボリューム調節ダイヤル

上に回すと小さく、下に回すと大きくなります。

ボリュームコントロール(Windows98/Windows2000)

画面右下のタスクバーに表示されている

「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。



システム音量の調整(WindowsXP)

[スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「システム音量を調整する」をクリックして、「音量」タブの「デバイスの音量」で調整します。

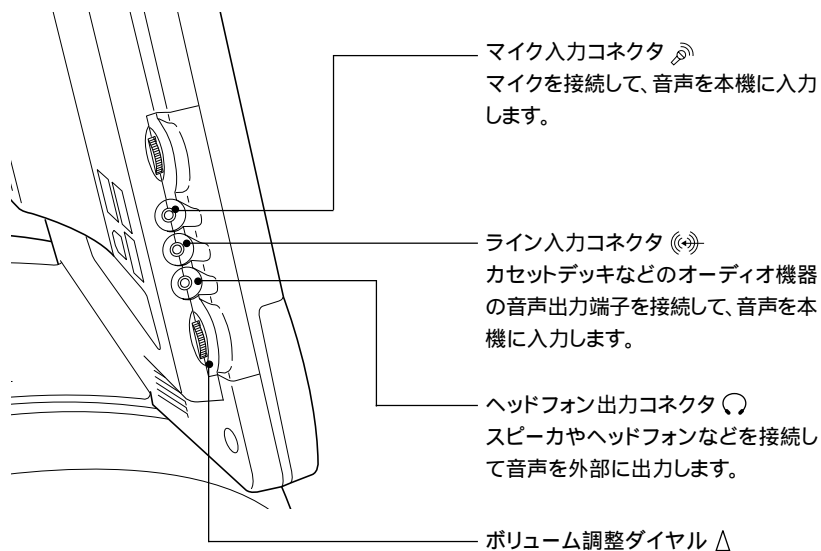


音量調節

使用するPCカード(FAXモデムカードなど)やアプリケーションによっては、別の方法で音量調節ができるようになっている場合があります。お使いになるPCカードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

外部オーディオ機器などの接続

本機の左側面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と機能は、次のとおりです。



参考

スピーカの接続

スピーカを接続すると内蔵ステレオスピーカの機能は、自動的に無効になります。

音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。

サウンドユーティリティは、[スタート]「(すべての)プログラム」「アクセサリ」「エンターテインメント」フォルダに登録されています。

サウンドユーティリティの使い方は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

FAXモデムを使う(FAXモデム機能搭載モデルのみ)

FAXモデム機能搭載モデルには、56Kbps(V.90対応)の通信速度に対応したFAXモデムカードが搭載され、高速の通信が可能です。



FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- ・ 構内交換機 (PBX)
- ・ 2線式でない回線 (ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線について 本機のFAXモデムは、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

ダイヤル回線 : 回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間により (パルス) ダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

プッシュ回線 : 押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ…」とトーンによる (トーン) 信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な回線での使用

PBXやホームテレホン回線への接続

本機のFAXモデムは構内交換機 (PBX) やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要な以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。

キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。

なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。


- 通信速度の制限** 本機のFAXモデムは、V.90*の通信方式により、最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、33600bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、使用している電話回線につながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
- *V.90 :ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
- 通信を行う** 本機のFAXモデムを使って、データ通信やファックス機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- ATコマンドについて** 本機のFAXモデムでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「リカバリCD(Windows2000ではDisc2、WindowsXPではDisc3)」の「MODEM」-「ATコマンドリファレンス.pdf(英文)」をご覧ください。
- 国モードの設定について** 本機のFAXモデムでは国モード(Country)を、[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「Modem Settings(WindowsXPでは[スタート]-「コントロールパネル」-「クラシック表示に切替える」-「Modem Settings」)で日本国(Japan)に設定しています。この設定は変更せずに使用してください。
- Wake on Ring 機能** 本機は、着信音で省電力モードから復帰する機能(Wake on Ring)をサポートしていません。Windows2000/WindowsXPには、「デバイスマネージャ」の「モデムのプロパティ」-「電源管理」タブに、着信音で省電力モードから復帰する項目がありますが、この項目で設定を行っても機能しません。

インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する作業の流れは、次のとおりです。

電話回線の接続


本機のFAXモデムコネクタと電話回線を接続します。

 p.14「電話回線への接続」



ダイヤルするための準備

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

 p.79「ダイヤル情報の設定」



プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。


契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

①オンラインで契約する。

電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、画面の指示に従って情報を入力していくと、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐにインターネットを使えます。支払いについては、クレジットカード決済になります。

②ハガキや電話で申し込み、契約する。


プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

 p.80「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」



回線接続前の設定(WindowsXPのみ)


WindowsXPで使用する場合に必要な設定をします。

 p.84「回線接続前の設定」

**接続**

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、メール交換が可能になります。

本書では、ブラウジングソフトウェアとして「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」、電子メールソフトウェアとして「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」を使用することを前提に記載しています。

 p.86「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」

**参考**

モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

ISDN回線を利用する

FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法は、TAの取扱説明書をご覧ください。

ネットワークを利用する

インターネットに接続されたLANなどに接続します。お使いになるネットワーク機器の説明書やネットワーク管理者の指示に従ってください。

ケーブルテレビの回線を利用する

詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

ADSLを利用する

詳しくはADSLサービス会社にお問い合わせください。


プロバイダの選択 プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びます。不明点などについては、プロバイダにご確認ください。

インターネットにかかる費用 インターネットを利用する場合に発生する費用は、以下のとおりです。

- 初期費用: プロバイダへ契約時に支払います。
入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。
- 基本料金: 月または年ごとにプロバイダへ支払います。
通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。
- 追加課金: 基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。
基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらかという追加料金が加算されます。
- 通話料金: プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。契約している電話会社へ支払います。
アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

インターネットを使う上での注意 インターネットや、電子メールを利用すると簡単に情報を得ることができたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、注意しなければならないこともあります。次の点に気を付けてインターネットや電子メールを使用してください。

電子メールは、途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。電子メールは、世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。インターネット上の情報は、すべてが正しいとは限りません。正しい情報であることを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。

 p.98「コンピュータウィルスの検索・駆除」

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の
設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1

ダイヤル情報の設定画面を表示します。

Windows98の場合 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「モデム」

Windows2000の場合 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」

WindowsXPの場合 : [スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」

2

「国名/地域」, 「市外局番」, 「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います(ダイヤルアップ接続の設定)。

次の手順は、設定方法の一例です。プロバイダより設定方法の資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。



参考

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
パスワード	PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバ	メールサーバー、POP メールサーバー

ダイヤルアップ
接続の設定をする
(Windows98/
Windows2000)

Windows98/Windows2000で手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「通信(Windows98では、「インターネットツール」)」-「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、…」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。
- 4 「ステップ1:インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。
- 5 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は[詳細設定]をクリックして次の設定を行います。
 - ① 「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。
 - ② 「ISPによるDNS(ドメイン ネーム サービス)アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。
 - ③ 「プライマリDNSサーバー」、「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。
- 6 「ステップ1」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「ステップ2:インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、[次へ]をクリックします。
- 8 「ステップ3:コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、[次へ]をクリックします。

- 9 「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 10 プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。
- ① 「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、「次へ」をクリックします。
 - ② 「電子メールアドレス」を入力して「次へ」をクリックします。
 - ③ 「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して「次へ」をクリックします。
 - ④ 「アカウント名」と「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。
- 11 「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら「完了」をクリックします。
- 「今すぐインターネットに...」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動して、「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。
- 次章「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」に進みます。

ダイヤルアップ 接続の設定をする (WindowsXP)

WindowsXPで手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「新しい接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で「次へ」をクリックします。
- 4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 6 「接続名」と表示されたら、接続先の名前を入力して「次へ」をクリックします。

- 7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、接続先の電話番号を入力して[次へ]をクリックします。
- 8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して[次へ]をクリックします。
- 9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 10 [スタート]-「接続」-「(手順6で設定した接続先の名前)」をクリックします。
- 11 [プロパティ]をクリックします。
- 12 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。
- ① 「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル(TCP/IP)」の[プロパティ]をクリックします。
 - ② 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
 - ③ 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。
- 13 「全般」タブ-「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて[OK]をクリックします。
- 14 [キャンセル]をクリックします。

回線接続前の設定(WindowsXP)

WindowsXPでは、回線接続前に次の設定を行います。

インターネット への自動接続・ 切断の設定

自動接続・切断の設定を行うことにより、Internet Explorerを起動または終了した際に、インターネットへの接続画面または切断画面が表示されるようになります。

自動接続・切断の設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「ネットワークとインターネット接続」-「インターネットオプション」-「接続」タブをクリックします。
- 2 「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。
- 3 [設定]-[詳細設定]をクリックします。
- 4 「接続がなくなったら切断する」にチェックを付けて「OK」をクリックします。これで自動接続・切断の設定は終了です。

Outlook Expressの 初期設定

WindowsXPでOutlook Expressをはじめて起動した際には、メールアドレスなどいくつかの情報を入力する必要があります。オンライン契約ではこの設定が必要ない場合があります。

初期設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「Outlook Express」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」で、「名前」と表示されたら、名前を入力して「次へ」をクリックします。
- 3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得した電子メールアドレスを入力して「次へ」をクリックします。

- 4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されているサーバー名を入力して [次へ] をクリックします。
- 5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているアカウント名とパスワードを入力して [次へ] をクリックします。
- 6 「設定完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

**参考**

初期設定を行わなかった場合は

「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。

「ツール」メニュー - 「アカウント」 - [追加] - 「メール」

Internet Explorerと Outlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)


インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

Outlook Express(アウトルックエクスプレス)

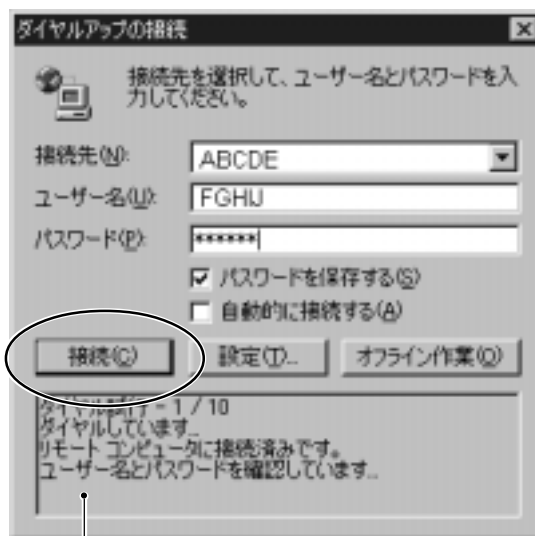
メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

起動方法

起動方法は、次のとおりです。

- 1 ソフトウェアを起動します。
Internet Explorer :[スタート]-「(すべての)プログラム」-「Internet Explorer」
Outlook Express :[スタート]-「(すべての)プログラム」-「Outlook Express」
Outlook Expressで、「オンラインに切り替えますか?」と表示されます。インターネット接続する場合は「はい」をクリックして手順2に進みます。
WindowsXPでOutlook Expressの初期設定を行っていない場合は初期設定を行います。
 p.84「Outlook Expressの初期設定」
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」「ユーザー名」「パスワード」を入力します。
自動的に入力されている項目もあります。

- 3 入力内容を確認して[接続]をクリックします。



[接続] をクリックすると接続状態が表示されます

- 4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。
接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。



< Windows98 >



< Windows2000/WindowsXP >



ダイヤルアップネットワークから接続する

インターネットへの接続は次の方法でも行えます。この場合は、接続完了後にソフトウェアを起動します。

Windows98/Windows2000の場合、次の場所に、表示される接続のアイコンをダブルクリックします。

Windows98 : 「マイコンピュータ」- 「ダイヤルアップネットワーク」

Windows2000 : 「マイコンピュータ」- 「ネットワークとダイヤルアップ接続」

WindowsXPの場合、[スタート]- 「接続」- 「(接続先の名前)」をクリックします。

メールソフトウェア使用時のインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

終了方法

Internet Explorerの場合

Internet Explorerの終了方法は、次のとおりです。

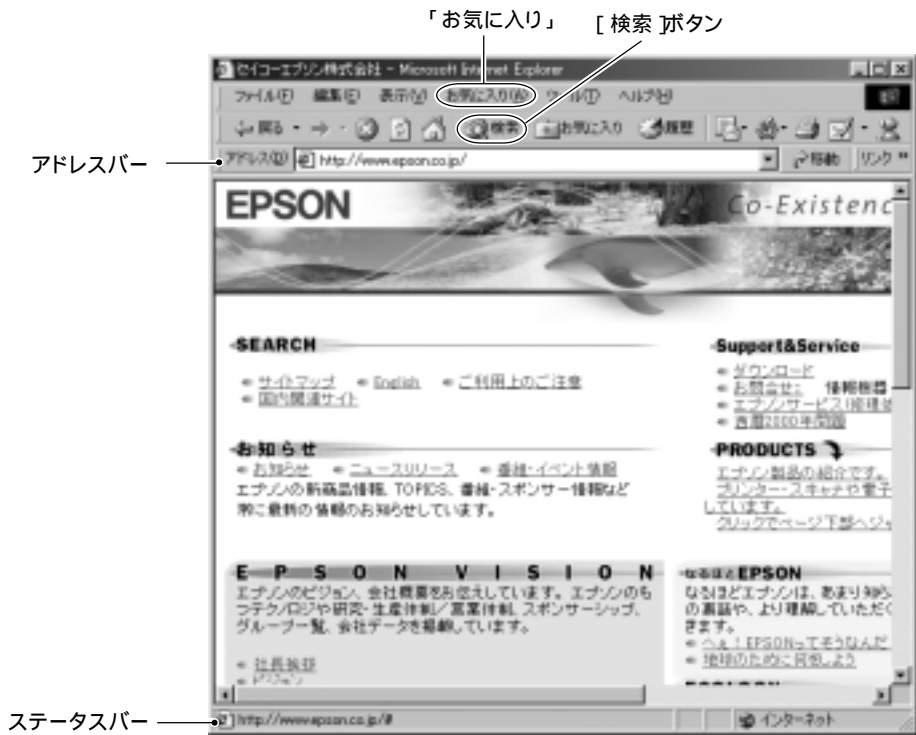
- 1 画面右上の をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。[直ちに切断] または [今すぐ切断する] をクリックします。

Outlook Expressの場合

Outlook Expressの終了方法は、次のとおりです。


- 1 インターネットに接続している場合は、「ファイル」- 「オフライン作業」をクリックします。
- 2 「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか」と表示されたら [はい] をクリックします。
- 3 画面右上の をクリックして、「Outlook Express」を終了します。

Internet Explorerの使い方



画面の内容は予告なく変更する場合があります。

見たいホームページを開く



- ・アドレスバーにURLアドレスを入力して  を押します。
 - ・キーワードを使って検索します。
- [検索] ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

「お気に入り」にページを登録する

よく見るページが「お気に入り」に登録しておくと、すぐにアクセスできます。

- ・登録:「お気に入り」-「お気に入りの追加」をクリックして登録します。
- ・登録したお気に入りにアクセスする:「お気に入り」をクリックすると、一覧が表示されます。

リンクしているページにジャンプする

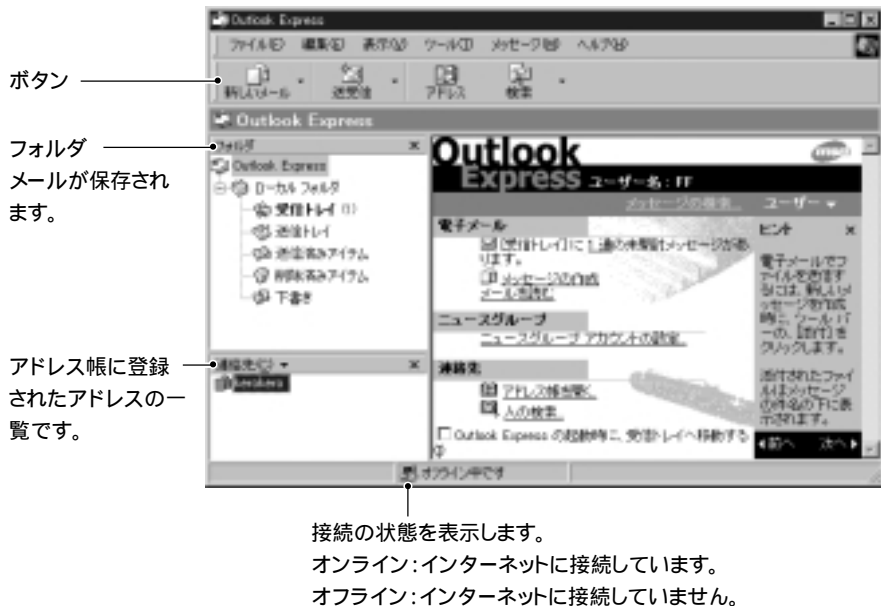
ホームページの画面上でマウスポインタが  から  に変わる場所があります。そこでクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。



JAVA VMのインストール(WindowsXPのみ)
ページによっては「JAVA VMをインストールしてください。」といったメッセージが表示されることがあります。このようなページを閲覧するためにはJAVA VMが必要です。p.34「JAVA VMのインストール」を参照してインストールを行ってください。

Outlook Expressの使い方

使い方



メールの作成とインターネット接続
インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときはインターネットに接続されている必要はありません。Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。

メールを送信する(オンラインの場合)

- 1 [新しいメール] [WindowsXPでは[メール の作成] をクリックしてメール作成画面を表示します。
- 2 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
- 3 [送信] をクリックします。

メールを送信する(オフラインの場合)

- 1 上記手順「メールを送信する(オンラインの場合)」1、2を参照して、メールを作成します。
- 2 [送信] をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。複数のメールを作成し、一度に送信することができます。
- 3 [送受信] をクリックして、「接続」画面で、[接続] をクリックします。接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

- 1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信] をクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくこと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

- 1 [アドレス] をクリックします。
- 2 [新規作成] をクリックして、「新しい連絡先」をクリックします。
- 3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行したりして、消費電力を抑えることができます。



次の状態でスタンバイまたは休止状態に入ると、正常に復帰できない、接続が切断される、誤動作するなどの現象が起こることがあります。省電力機能を使用する前に接続する機器やアプリケーションに添付のマニュアルを確認してください。

NetWareサーバーを利用している状態やNetBEUIを使用してネットワークに接続している状態。

ネットワーク上のファイルなどを開いたままの状態。

FAXモデムやネットワークなどのPCカード使用時や、赤外線通信の実行中。

サウンド機能を使って録音・再生しているとき。

電源管理機能との相性が良くない周辺機器を接続し動作させている場合。

アプリケーションを起動した状態または動作中。

このような場合は、下記のいずれかの対処方法を取ってください。

切断後に再度ログオンする (Netwareサーバーを利用している場合のみ)
再起動する

省電力モードを無効にする

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。電力消費を通常モードの約半分に抑えます。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが橙色に点滅します。通常モードへは数十秒で復帰できます。

休止状態

作業内容をHDDに保存してコンピュータの電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様にほとんど電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。PCカードや周辺機器によっては、復帰後に正常に使用できなくなるものがあるので、注意が必要です。


休止状態を有効にする

休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。

Save to Disk領域の作成(Windows98のみ)

作業内容を保存する領域(Save to Disk領域)を作成します。購入時にSave to Disk領域は作成されていません。また、次の場合は、Save to Disk領域を作成しなおす必要があります。

- ・メモリの増設を行った場合
- ・リカバリの実行を行った場合

 p.177 「Save to Disk領域の作成」

休止状態の設定

「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」にチェックを付けると休止状態が有効になります。

Windows98では、上記の「Save to Disk領域の作成」が行われていないと、休止状態タブが表示されません。

休止状態の設定は、次の画面で行います。

Windows98 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源の管理」-「休止状態」タブ

Windows2000 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブ

WindowsXP : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」-「休止状態」タブ



<Windows2000の場合>

電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプによって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	橙点滅
休止状態	消 灯
電源切断時	消 灯

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。

省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行したりします。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力機能に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

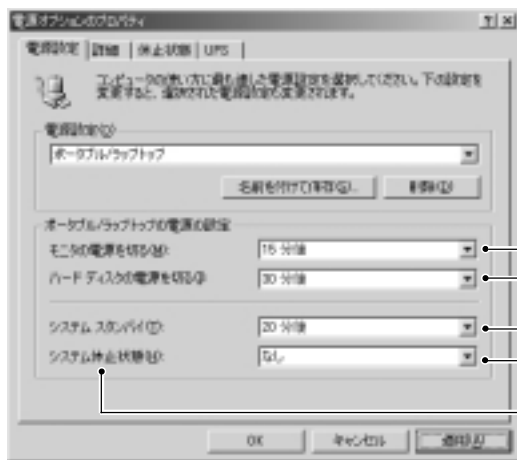
Windows98 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源の管理」

Windows2000 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」

WindowsXP : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに入る時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



Windows2000の場合

設定した時間を超えて何も操作しないと、各モードに移行します。

「システム休止状態」は、休止状態が有効に設定されている場合に表示されます。(Windows98では表示されません。)

直ちに実行

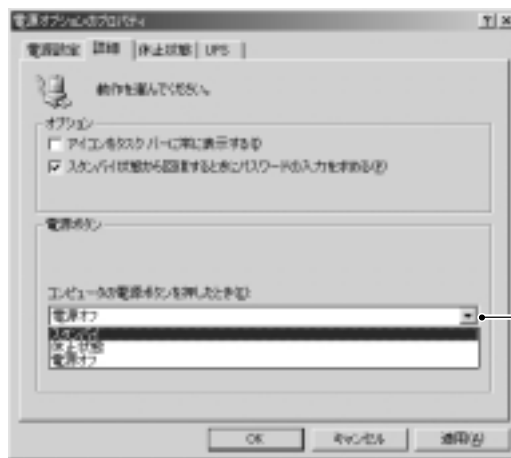
次の方法で、スタンバイ、または休止状態に入ります。

[スタート]から選択します。

[スタート]-「シャットダウン」画面または「終了オプション」でモードを選択します。(Windows98/WindowsXPでは休止状態が表示されません。)

電源スイッチを押します。

電源スイッチを押したときにどのモードに入るかをあらかじめ「詳細」タブで設定します。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

Windows2000の場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

復帰にかかる時間は使用環境により異なります。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、モニタの電源が切れている状態	緑点灯	マウス、キーボードを操作する。 誤って電源スイッチを押さないください。
スタンバイ	橙点滅	電源スイッチを押す。
休止状態	消灯	

そのほかの機能

ネットワーク機能を使う

本機のメインボードにはネットワーク機能が搭載されています。ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ、サーバーなどが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。ネットワークの構築は、お使いになるネットワーク機器の説明書や、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。



制限

NetWareサーバーを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたままだと、省電力モードに移行できないことや通常モードに復帰できないことがあります。

パラレルコネクタを使う

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機では、パラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常は、パラレルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、SCUで変更してください。

 p.120「Componentsに関する設定」

シリアルコネクタを使う

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、SCUで変更してください。

 p.120「Componentsに関する設定」

USBコネクタを使う

本機にはUSBコネクタが背面に2個、右側面に2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行えます。

ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

IEEE 1394 コネクタを使う(IEEE 1394 搭載モデル)

IEEE1394機能搭載モデルには本機背面にIEEE1394コネクタ(6ピン)が1個用意されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。本機には6ピン - 4ピン仕様のIEEE1394ケーブルが添付されています。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行えます。

ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。購入時には、「VirusScan for Windows」はインストールされていないのでインストールを行ってください。

 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

データファイルの更新

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新が必要です。詳しくは、VirusScanのオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は、添付の「ユーティリティCD」に登録されています。

システムの拡張

メモリの増設やコンピュータに接続できる機器について説明します。

DIMMの増設

本機は、DIMM(メモリ)を増設・交換することができます。本章では本機で使用可能なDIMMの仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。



制限

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。ビデオメモリの初期値は8MBです。この値はSCUで設定します。

☞ p.118「Memoryに関する設定」

DIMMの増設・交換の手順にはCMOS RAMの初期化が含まれています。CMOS RAMの初期化を行うと現在のSCUの設定情報がクリアされます。DIMMの増設・交換を行う前に、SCUの設定値を記録しておくことをおすすめします。

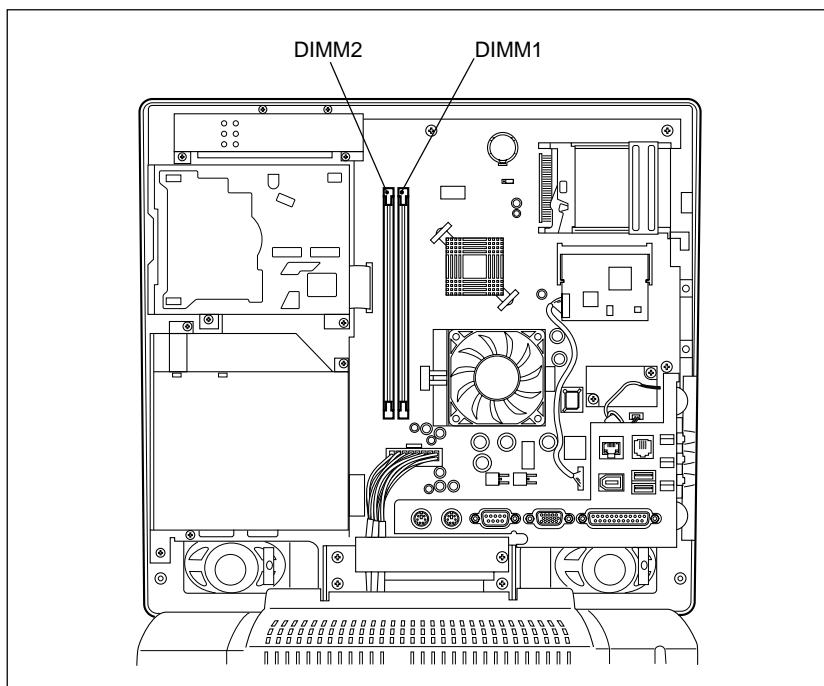
☞ p.122「SCUの設定値」

Windows98で休止状態を使用する場合はメモリ増設後、メモリ容量に合わせてSave to Disk領域を作成し直す必要があります。

☞ p.177「Save to Disk領域の作成」

DIMMの仕様

本機には、2つのDIMMソケットが用意されており、DIMMを増やすことにより最大512MBまで拡張できます。DIMMソケットはDIMM1とDIMM2の2本あります。2本のソケットに取り付けの優先順位はありません。



本機で使用可能なDIMMの仕様は次のとおりです。

168ピンDIMM(Dual Inline Memory Module)

3.3V SDRAM (Unbufferd SynchronousDRAM)

メモリ容量 128MB、256MB

ECC機能非対応

上記仕様と一致するDIMMを弊社のオプションリストより選択してください。

作業時の注意

DIMMを増設、交換する場合は、次の点に注意してください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



DIMMの増設・交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電源が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。DIMMやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。DIMMを持つときは、DIMMの端子部や素子に触れないでください。DIMMの破損や接触不良による誤動作の原因になるおそれがあります。

装着する方向を間違えないでください。DIMMが抜けなくなるなど故障の原因になります。

DIMMを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。

DIMMの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

背面カバーの取り外し・取り付け

DIMMの増設・交換を行うには、背面カバーを取り外す必要があります。

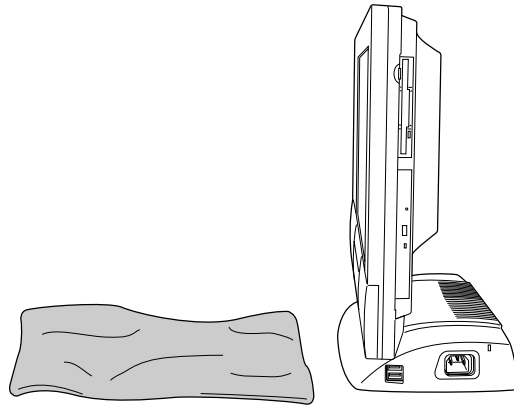
場所の確保と 布の用意

背面カバーを取り外す場合は、LCDユニットを倒して、ユニットの背面を上にして置く必要があります。作業ができる十分な場所を確保してください。また、LCD画面を傷つけないようにユニットの下に敷く厚手の布を用意してください。ただし、毛布などは静電気が発生しやすく、ホコリも立ちやすいので使用しないでください。

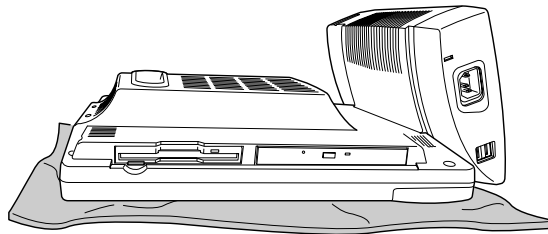
取り外し

- 1 コンピュータにFD、PCカードがセットされている場合は取り出します。また、PCカードスロットのイジェクトボタンが起きている場合は、たたみます。
- 2 本機の電源を切ります。
- 3 接続しているすべてのケーブルを外します。
必ず電源コードも外します。
- 4 厚手の布をLCDユニットの前面に敷きます。

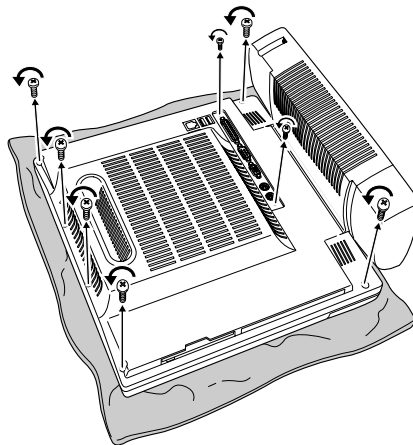
- 5 LCDユニットを垂直に立てます。



- 6 LCDユニットを前面に倒します。
倒すときにはユニットの下側を持つなどして、ユニット上側に余分な力を加えないようにしてください。



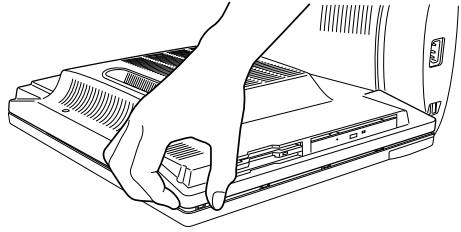
- 7 LCDユニット背面のネジ(8個)を外します。
ネジの大きさが異なります(大×6個+小×2個)、ネジの大きさに合うドライバーを使用してください。



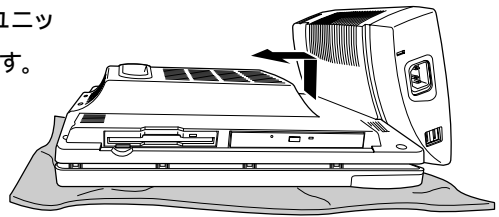
8

背面カバーを外します。

- ① 背面カバーの四隅をLCDユニットから浮かせます。
PCカードイジェクトボタンやFDDイジェクトボタンが引っ掛からないように気を付けてください。



- ② カバーを矢印のようにユニット上側に動かして外します。



取り付け

1

背面カバーをLCDユニットに合わせてはめ込みます。
LCDユニットの下側を合わせてから上側を合わせます。

2

ネジ(8個)で背面カバーを固定します。

3


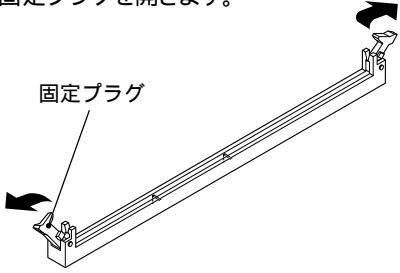
LCDユニットを起こします。
LCDユニット上側とベースユニットを持って起こします。

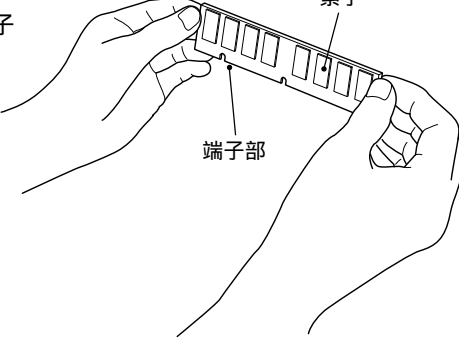
4

ケーブル類をもとどおり接続します。

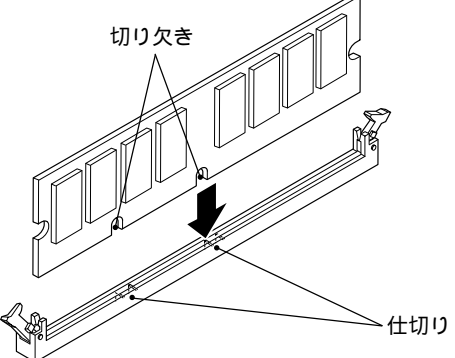
DIMMの取り付け

DIMMの 取り付け

- 1 背面カバーを外します。
 p.102「背面カバーの取り外し」
- 2 DIMMソケットの固定プラグを開きます。


固定プラグ
- 3 DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。


端子部

素子
- 4 DIMMソケットにDIMMを差し込みます。
 - ① DIMMの2つの切り欠きをDIMMソケット内の2つの仕切りに合わせます。
 - ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。

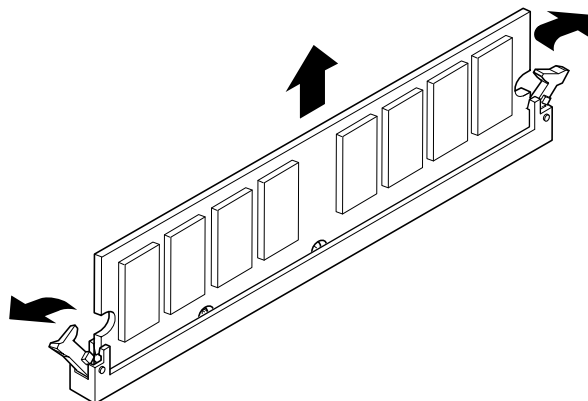
切り欠き

仕切り

- 5 CMOS RAMを初期化します。
p.155「CMOS RAMの初期化」手順2、3、4を行います。
- 6 背面カバーを取り付けます。
☞ p.104「背面カバーの取り付け」
- 7 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。
- 8 SCUを起動して、総メモリ容量を正しく設定します。
① コンピュータの電源を入れて、**F2** を押し、「SCU」を起動します。
☞ p.111「SCUの起動」
② メニューバーの「Exit」-「Default Settings」を選択します。
③ 設定画面が表示されたら、「OK」を選択します。
④ 日時、時刻やそのほか変更が必要な項目の設定を行います。
- 9 SCUの初期画面に表示されている「Memory」項目の「Total RAM」で総メモリ容量を確認します。(1MB = 1024KB)
ただし、本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。装着している総メモリ容量から、ビデオメモリで使用するメモリ容量を引いた容量が表示されます。ビデオメモリの初期値は8MBです。
☞ p.118「Memoryに関する設定」-「Shared Memory」
容量が正しければDIMMは正しく取り付けられています。SCUを保存終了します。容量が正しくない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

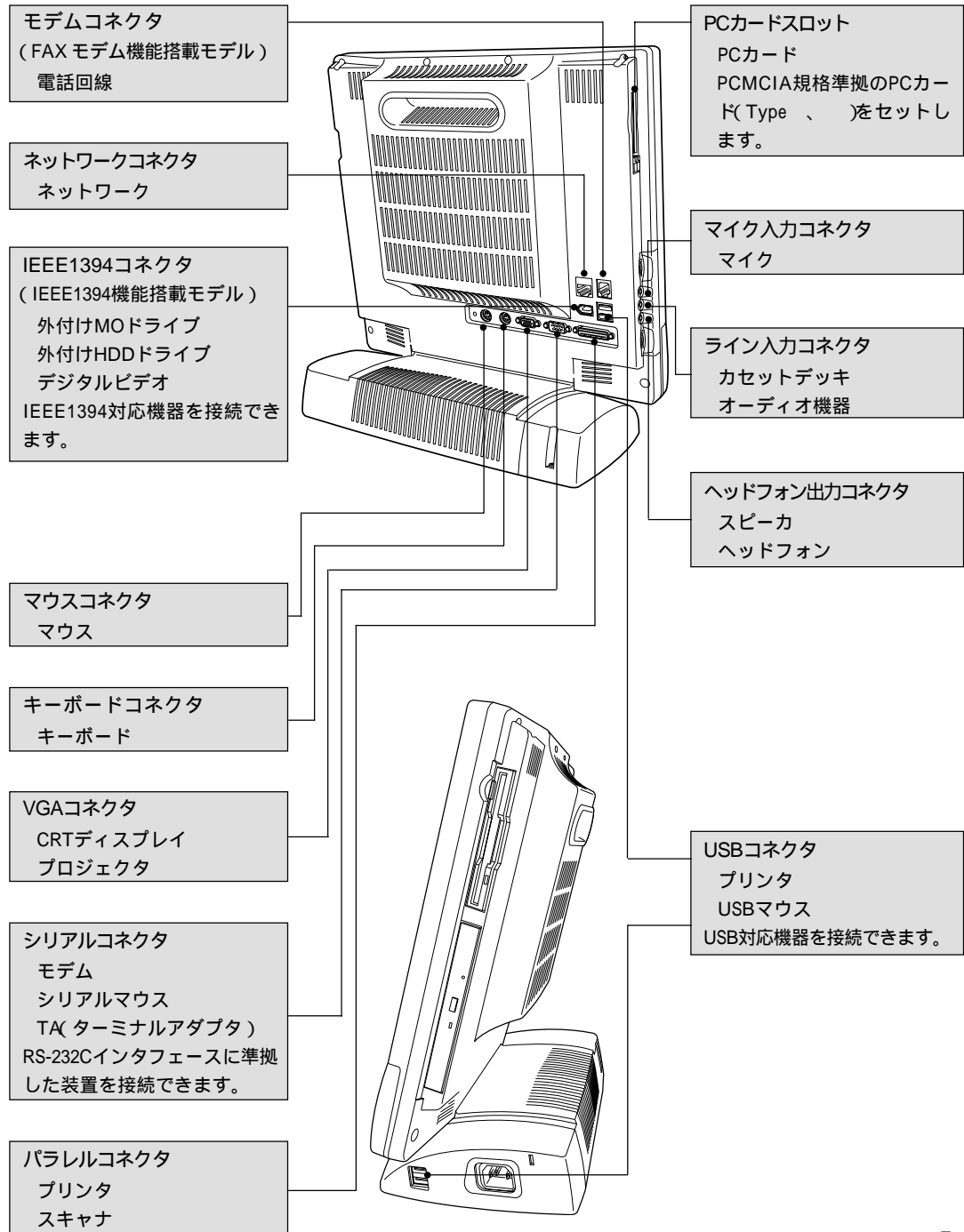
DIMMの外し方

DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。
取り外したDIMMは静電防止袋に入れて保管してください。



外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書および接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。





SCUの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「SCU」の設定を変更する方法について説明します。

SCUの設定を始める前に

SCUの設定を始める前に

SCU (System Configuration Utility) は、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

SCUの設定は、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。SCUの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
パスワードを設定する場合


SCUの設定値を間違えると、正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。SCUで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリは、リチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

SCUで設定した内容は、リチウム電池が保持します。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や、時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合はリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.152「リチウム電池の交換」



制限

設定値を変更して動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなったりした場合に備えて、必ず購入時の設定値を「SCUの設定値」に記録しておいてください。

 p.122「SCUの設定値」

設定を変更後に、万一、動作が不安定になった場合は「Default Settings(初期設定値)」または「Restore Settings(前回設定値)」を実行することでもとの値に戻すことができます。

 p.113「設定値をもとに戻すには」

SCUの操作

SCUの起動

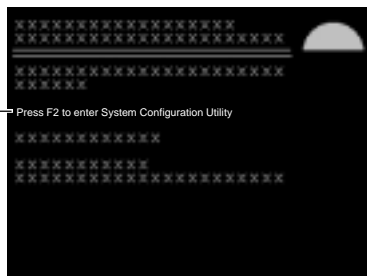
1 本機の電源を入れます。すでに電源が入っている場合は再起動します。

2 黒い画面に次のメッセージが表示されている間に **F2** を押します。

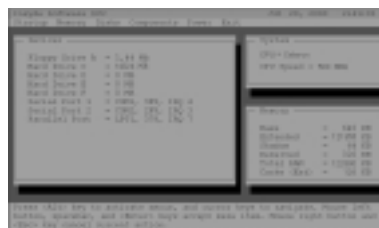
Press F2 to enter System

Configuration Utility

このメッセージが表示されている間に **F2** を押さないとWindowsが起動します。



3 SCUが起動すると、次の画面が表示されます。初期画面では、現在のシステムの状態を表示しています。



SCU初期画面(イメージ)

前回と仕様が異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、電源を入れたあとに次のメッセージが表示されます。

Press F1 to Continue

このメッセージが表示されたら、**F2** を押してSCUを起動します。項目の設定を確認、変更してから「Save and Exit」を実行して終了します。

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

SCUの操作

SCU画面は、次のように構成されています。操作には、キーボードとPS/2マウスが使えます。



「メニューバー」から設定変更を行う項目を選択すると「プルダウンメニュー」が開きます。「プルダウンメニュー」の右端に▶マークがある場合はさらに「設定画面」が開きます。

キーボードでの操作 次のキーで操作します。

[Alt] :カーソルをアクティブにする。

メニューバー

[→] **[←]** :「メニューバー」間を移動。

プルダウンメニュー

[↑] **[↓]** :「プルダウンメニュー」間を移動。

[←] :メニュー左側に **[_]** または **[_]** が表示されている場合は (有効) または **[_]** (無効) を選択。

[→] :メニュー右側に **[▶]** が表示されている場合は、「設定画面」に移る。

設定画面

[Tab] :「設定画面」の「グループ」[OK] [Cancel] 間の移動。

[↑] **[↓]** :グループ内の項目の移動、数値の変更。

[Space] :グループ内の項目を選択。

[OK] を選択して **[←]** : 設定を実行して「メニューバー」に戻る。

[Cancel] を選択して **[←]** : 設定をキャンセルして「プルダウンメニュー」に戻る。

PS/2マウスでの
操作

変更したい項目や、実行したい項目の上にカーソルを置いて、クリックします。反転表示されている項目に、カーソルが置かれていないと、クリックしても実行されません。

右クリックは **[Esc]** と同じです。現在の作業が取り消されます。

数値の変更や入力、マウスでは行えません。反転表示後に、**[↑]**、**[↓]** または数値キーで入力します。

設定値をもとに戻すには

SCUの設定を間違えてしまい、万が一コンピュータの動作が不安定になった場合などには、SCUの設定を戻すことができます。ただし、設定したパスワードは、変更されません。

初期値に戻す
(Default
Settings)

- 1 「設定画面」が開いている場合は閉じます。
- 2 メニューバーの **[Exit]** を選択し、プルダウンメニューから「Default Settings」を選択します。
- 3 次のメッセージが表示されたら、**[OK]** を選択します。
Do you wish to change the current setup to the system default values?

前回保存した
内容に戻す
(Restore
Settings)

- 1 「設定画面」が開いている場合は閉じます。
- 2 メニューバーの **[Exit]** を選択し、プルダウンメニューから「Restore Settings」を選択します。
- 3 次のメッセージが表示されたら、**[OK]** を選択します。
Do you wish to restore the current setup to the original custom values?

SCUの終了

SCUを終了するには、次の2つの方法があります。

変更した内容を
保存し、終了す
る(Save and
Exit)

- 1 「設定画面」が開いている場合は閉じます。
- 2 メニューバーの[Exit]を選択し、プルダウンメニューから「 Save and Exit 」を選択します。
- 3 次のメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。
Press <OK> to Save the current setup parameters to CMOS RAM
The computer will be rebooted !!!

変更した内容を
破棄し、終了す
る(Exit(No
Save))

- 1 「設定画面」が開いている場合は閉じます。
- 2 メニューバーの[Exit]を選択し、プルダウンメニューから「 Exit(No Save)」を選択します。
- 3 次のメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。
Press <OK> to Exit the SCU. The current settings will not be saved!!!

パスワードの設定と解除

パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。パスワードを設定しておくことで、他人に無断でコンピュータを使用されたり、SCUの設定を変更されたりするのを防ぐことができます。パスワードの設定は、SCUで行います。

パスワードの種類

パスワードには、次の2種類があります。それぞれのタイミングでパスワードチェックを行います。

Boot Password: Windows起動時にパスワードの入力を要求します。

正しいパスワードを入力しないとWindowsが起動しません。

SCU Password: SCUの保存終了時にパスワードの入力を要求します。

正しいパスワードを入力しないとSCUの変更を保存して終了できません。

パスワードの設定



登録したパスワードは忘れないように書き写して保管しておくことをおすすめします。万一、パスワードを忘れてしまった場合には、「p.155「CMOS RAMの初期化」」を実行します。

ここでは「Boot Password」の設定方法を説明します。「SCU Password」の設定方法も基本的に同じです。

パスワード
の設定

- 1 SCUのメニューバーから「Start up」を選択し、プルダウンメニューから「Boot Password」を選択します。
- 2 「Enter new Power-On Password」に設定したいパスワードを8文字以内で入力して「Enter」を押します。
「SCU Password」の場合は「Enter new setup Password」と表示されます。入力された文字は伏字（*）で表示されます。（*）が表示されない文字記号はパスワードとして使用できません。入力する文字は大文字/小文字を区別しません。


- 3 「Verify new Power-On Password」に確認のため同じパスワードを入力して を押します。
- 4 「Enable Password to Power-On」のチェックボックスにチェックを付けます。
- 5 [OK] を選択します。

パスワードの変更

- 1 SCUのメニューバーから[Start up]を選択し、プルダウンメニューから「Boot Password」を選択します。
- 2 「Enter old Power-On Password」に設定してあるパスワードを入力して を押します。
- 3 「Enter new Power-On Password」に設定したいパスワードを8文字以内で入力して を押します。
- 4 「Verify new Power-On Password」に確認のため同じパスワードを入力して を押します。
- 5 「Enable Password to Power On」のチェックボックスにチェックを付けます。
- 6 [OK] を選択します。

パスワードの解除



- 1 SCUのメニューバーから[Start up]を選択し、プルダウンメニューから「Boot Password」を選択します。
- 2 「Enter old Power-On Password」に設定してあるパスワードを入力して を押します。
- 3 「Enter new Power-On Password」に何も入力せずに を押します。

- 4 「Verify new Power-On Password」に何も入力せずに  を押します。
- 5 「Enable Password to Power On」のチェックボックスのチェックを外します。
- 6 [OK] を選択します。

SCUの設定項目

Start upに関する設定

表中の は初期値を示しています。

BIOS項目		説明
Date and time		現在の日時の設定をします。
Fast Boot		システム起動時にメモリチェックを省略して、起動時間を短くします。 <input type="checkbox"/> : 高速起動します。 <input type="checkbox"/> : 高速起動しません。
Boot Device		システムを起動するドライブを選択します。1st Boot Deviceから順番にシステムを検出してシステムが見つかったドライブから起動します。 初期値は1st:Diskette A 2nd:HardDisk C 3rd:CD-ROM Driveです。
	1st Boot Device	Diskette A : FDDから起動します。
	2nd Boot Device	Hard Disk C : HDDから起動します。
	3rd Boot Device	CD-ROM Drive : CD-ROMドライブから起動します。
USB Setting	Legacy O.S. Support	USBの機能を有効にするかどうかを指定します。 Enabled : 有効にします。 Disable : 無効にします。
Boot Password		システム起動時にパスワードチェックを行うかを設定します。  p.115「パスワードの設定と解除」
SCU Password		SCU終了時にパスワードチェックを行うかを設定します。  p.115「パスワードの設定と解除」

Memoryに関する設定

BIOS項目		説明
Shared Memory	Shared Memory Size	メインメモリの一部をビデオメモリとして使用するサイズを設定します。 8M/16M/32M

Disksに関する設定

BIOS項目		説明
Internal FDC		FDDの機能を有効にするかどうかを設定します。 <input type="checkbox"/> :有効にします。 <input type="checkbox"/> :無効にします。
Diskette Drives	Drive A	接続しているFDDのタイプを設定します。 None : FDD未接続 1.44Mb : 1.44MB対応FDD 2.88Mb : 2.88MB対応FDD
Internal HDC		内蔵HDDの機能を有効にするかどうかを設定します。 <input type="checkbox"/> :有効にします。 <input type="checkbox"/> :無効にします。
IDE Settings	HDD Timing	HDDのタイプを設定します。通常は自動的に検出されるので設定の必要はありません。 Standard : PIOモード0 Fast PIO : PIOモード1、2、3、4 Multiword DMA : DMAモードの0、1、2 Ultra DMA-33 : Ultra DMAモード2 Ultra DMA-66/100 : Ultra DMAモード4/5
	I/O 32 bit transfer	32ビットデータ転送の有効、無効を設定します。 Enabled : 有効 Disabled : 無効
	HDD Block transfer	ブロック転送の有効、無効を設定します。 Enabled : 有効 Disabled : 無効
Virus Alert		ウイルスチェックを行うかどうかを設定します。VirusScan for Windowsなどのウイルス検出ソフトを使用する場合は無効に設定します。 <input type="checkbox"/> :有効にします。 <input type="checkbox"/> :無効にします。

Componentsに関する設定

BIOS項目		説明
COM Ports	COM A I/O Settings	シリアルポートで使用するリソースの設定を行います。 Disabled: 使用しません COM1,3F8,IRQ4/COM2,2F8,IRQ3/COM3,3E8,IRQ4/COM4,2E8,IRQ3
	COM B I/O Settings	赤外線ポートの設定を行います。 Disabled: 使用しません COM2,2F8,IRQ3/COM1,3F8,IRQ4/COM3,3E8,IRQ4/COM4,2E8,IRQ3
	Mode Setting For COM B	赤外線ポートのモードを設定します。(「COMB I/O Settings」を「Disabled」以外に設定した場合) IrDA(HPSIR) : SIRモード FAST IR : FIRモード
	DMA Setting For Fast IR	FAST IRで使用するDMAを設定します。(赤外線ポートのモードをFAST IRに設定した場合) DMA 0/DMA1/DMA3
LPT Port	Port Address	パラレルポートで使用するリソースの設定を行います。 LPT1,378,IRQ7/LPT3,3BC,IRQ7/None
	Port Definition	パラレルポートの動作モードを設定します。 Standard AT(Centronics) : Centronicsモード Bidirectional(PS-2) : PS-2モード Enhanced Parallel(EPP) : EPPモード Extended Capabilities (ECP): ECPモード
	DMA Setting For ECP Mode	ECPモード時に使用するDMAを設定します。(パラレルポートの動作モードをECPに設定した場合) DMA1/ DMA3
	EPP Type	EPPモードのタイプを設定します。(パラレルポートの動作モードをEPPに設定した場合) EPP1.7/EPP1.9
PS/2 Mouse Port		PS/2マウスを使用するかどうかを設定します。 <input type="checkbox"/> : 使用します。 <input type="checkbox"/> : 使用しません。
Keyboard Numlock		起動時のNumLockの状態を設定します。 <input type="checkbox"/> : NumLock点灯。 <input type="checkbox"/> : NumLock消灯。
Keyboard Repeat	Key Repeat Rate	1秒間のキーリピート回数を選択します。 2,6,10,15,20,30cps
	Key Delay	最初のキー入力から次のキー入力を受け付けるまでの時間を選択します。 1/4, 1/2, 3/4, 1sec

Powerに関する設定

BIOS項目	説明
Wakeup on LAN	電源切断時にネットワークから復帰するかどうかを設定します。Wakeup on LAN機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。分電盤またはOAタップなどにより、コンピュータ本体の電源をいったん切断して再度供給した場合は無効となります。 <input type="checkbox"/> : 復帰します。 <input type="checkbox"/> : 復帰しません。

Exitに関する設定

BIOS項目	説明
Save and Exit	変更を保存し、終了します。
Exit (No Save)	変更を破棄し、終了します。
Default Settings	終了せずに初期設定値に戻します。パスワードは変更されません。
Restore Settings	終了せずに前回保存した値に戻します。パスワードは変更されません。
Version Info	バージョン情報を表示します。

SCUの設定値

Start up

項目		購入時の設定			変更内容		
Fast Boot		—			—		
Boot Device	1st Boot Device	Hard Disk C	CD-ROM Drive	Diskette A	Hard Disk C	CD-ROM Drive	Diskette A
	2nd Boot Device	Hard Disk C	CD-ROM Drive	Diskette A	Hard Disk C	CD-ROM Drive	Diskette A
	3rd Boot Device	Hard Disk C	CD-ROM Drive	Diskette A	Hard Disk C	CD-ROM Drive	Diskette A
USB Setting	Legacy O.S. Support	Enable	Disable	Enable	Disable	Enable	Disable

Memory

項目		購入時の設定			変更内容		
Shared Memory	Shared Memory Size	8M	16M	32M	8M	16M	32M

Disks

項目		購入時の設定			変更内容		
Internal FDC		—			—		
Diskette Drives	Drive A	None	1.44Mb	2.88Mb	None	1.44Mb	2.88Mb
Internal HDC		—			—		
IDE Settings	HDD Timing	Standard	Fast PIO	Multiword DMA	Standard	Fast PIO	Multiword DMA
		Ultra DMA-33	Ultra DMA-66/100		Ultra DMA-33	Ultra DMA-66/100	
	I/O 32 bit transfer	Enabled	Disabled		Enabled	Disabled	
	HDD Block transfer	Enabled	Disabled		Enabled	Disabled	
Virus Alert		—			—		

Components

項目		購入時の設定			変更内容			
COM Ports	COM A I/O Settings	Disabled	COM1,3F8,IRQ4	COM2,2F8,IRQ3	Disabled	COM1,3F8,IRQ4	COM2,2F8,IRQ3	
			COM3, 3E8, IRQ4	COM4, 2E8, IRQ3		COM3, 3E8, IRQ4	COM4, 2E8, IRQ3	
	COM B I/O Settings	Disabled	COM2,2F8,IRQ3	COM1,3F8,IRQ4	Disabled	COM2,2F8,IRQ3	COM1,3F8,IRQ4	
			COM3, 3E8, IRQ4	COM4, 2E8, IRQ3		COM3, 3E8, IRQ4	COM4, 2E8, IRQ3	
	Mode Setting For COM B	IrDA(HPSIR)	FAST IR		IrDA(HPSIR)	FAST IR		
	DMA Setting For Fast IR	DMA 0	DMA1	DMA3	DMA 0	DMA1	DMA3	
LPT Port	Port Address	LPT1,378,IRQ7	LPT3,3BC,IRQ7	None	LPT1,378,IRQ7	LPT3,3BC,IRQ7	None	
	Port Definition	Standard AT	Bidirectional		Standard AT	Bidirectional		
		Enhanced Parallel	Extended Capabilities		Enhanced Parallel	Extended Capabilities		
	DMA Setting For ECP Mode	DMA1	DMA3		DMA1	DMA3		
	EPP Type	EPP1.7	EPP1.9		EPP1.7	EPP1.9		
PS/2 Mouse Port		—			—			
Keyboard Numlock		—			—			
Keyboard Repeat	Key Repeat Rate	2	6	10	15	20	30	
	Key Delay	1/4	1/2	3/4	1	1/4	1/2	3/4

Power

項目	購入時の設定	変更内容
Wakeup on LAN	—	—



こんなときは

困ったときの確認事項と対処方法
について説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

コンピュータ本体の不具合



電源を切ってから入れなおす場合には、入れなおすまでに20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れると、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなることがあります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.11「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を電源コンセントに接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象


起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。


確認と対処


コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to Continue

 を押して「SCU」を起動します。通常は、そのまま「Save and Exit」を実行して「SCU」を終了します。


 p.114「SCUの終了」

 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

起動時の自己診断テスト終了後(Windowsの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.145「警告メッセージが表示されたら」


SCUの設定が正常でない可能性があります。SCUで設定値を初期値に戻してください。

 p.113「設定値をもとに戻すには」

SCUを初期値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.155「CMOS RAMの初期化」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.145「警告メッセージが表示されたら」


現象


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処


SCUでパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。SCUでは大文字、小文字を区別します。

 p.115「パスワードの設定と解除」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値キーは使用できません。

 p.41「キーボードを使う」


パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.155「CMOS RAMの初期化」

現象 起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。




- DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- Operating System not found

確認と対処 「起動ディスク」などシステムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.135「HDDの不具合」


システムが登録されていないFDがFDDにセットしてある場合は、FDを抜いてどれかキーを押してください。

現象 ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処  +  +  を押してリセットします。


リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.37「リセット」

現象 「SCU」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.152「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない


確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

キーボードの不具合


現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは **Num Lock** の状態により機能が変わります。**Num Lock** キーを押してオンの状態にします。

 p.41「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。


確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は電源が入っていない状態で行ってください。

 p.13「キーボードとマウスの接続」

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。


 p.37「リセット」

現象

キーボードにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

日本語キーボード用ドライバの特性により印字されている文字の中で固有の文字は入力できません。

 p.43「記号の入力」

Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。
Windows上で次のキーボードが選択されていることを確認します。

Windows98 : 106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)

Windows2000/WindowsXP : 101/102英語キーボードまたはMicrosoft
Natural PS/2キーボード

キーボードの種類は次の場所で確認します。

Windows98の場合 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「システム」 - 「デバイスマネージャ」タブのキーボード

Windows2000の場合 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「キーボード」 - 「ハードウェア」タブ

WindowsXPの場合 : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその他のハードウェア」 - 「キーボード」 - 「ハードウェア」タブ


マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処


マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.13「キーボードとマウスの接続」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。


 p.37「リセット」

現象

OSやアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.13「キーボードとマウスの接続」


MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処


マウスのクリーニングを行ってください。

 p.150「マウスのお手入れ」

LCDの不具合

現象 LCD画面が真っ暗で何も表示されない。

確認と対処 表示装置の設定がLCD画面を表示する設定になっていない(外付けディスプレイのみに表示)可能性があります。表示装置の設定を変更してください。

 p.65「外付けディスプレイに表示するには」

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。ピーブ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 しばらく放置しておくと表示が消えてしまう。

確認と対処 省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはマウスを操作してみてください。

 p.92「省電力機能を使う」

現象 画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。Safe(セーフ)モードで起動し直してみてください(次ページ参照)。

Windows98 の場合

Windows98をSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあと、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**Ctrl**を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**←**を押します。

Windows2000 の場合

Windows2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。
- 2 画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8**を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください。
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←**を押します。

WindowsXP の場合

WindowsXPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、WindowsXPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、約20秒間放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**F8** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
- 4 「オペレーティングシステムの選択」の画面が表示されたら、**↵** を押します。
- 5 ユーザーを選択してログオンします。

現象

画面がちらつく。

確認と対処

LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、SCUを起動して、SCUの画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。SCU画面でも同様の現象が発生する場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

FDDの不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。


A:¥
デバイスの準備ができていません。
[OK]

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。


ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

 p.45「FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う」


別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、読み書きできないFDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「SCU」「Disks」のFDDに関する項目がすべて初期値となっているか確認してください。

 p.119「Disksに関する設定」

起動ディスクなどのシステムが組み込まれているFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 FDに書き込みできない。


確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.48「ライトプロテクト」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。「SCU」「Disks」のHDDの設定を確認してください。
 p.119「Disksに関する設定」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

CD-ROMドライブの不具合

本機に、CD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブなどのドライブ装置が装着されているときは、ドライブ装置に添付されているマニュアルも参照してください。

現象 セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処 CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプの点灯中は読み込みの準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。

コンピュータに添付されていたCD-ROM(「ユーティリティCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。


現象 CDをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処 セットしたCDに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や[X]をクリックして、1度画面を閉じます。その後「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、[開く]を選択します。

現象 セットしたCDが読み込めない。

確認と対処 CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDを再生するソフトウェアとして「CDプレイヤー」が標準で添付されています。

現象 音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処 スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリューム調節ダイヤルで音量を調節してみてください。
 p.72「サウンド機能を使う」

アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処 アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。


アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 表示されるメモリ容量が実際の容量と違う。

確認と対処 本機はメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メモリ容量からビデオメモリ分が差し引かれて表示されます。

起動時のメモリチェックや、Windows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。SCUを起動して、初期画面の「Total RAM」で確認してください(ビデオメモリ容量を差し引いた容量)。

 p.111「SCUの起動」

メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合


現象 PCカードを装着しても使用できない。

確認と対処 PCカードが、対応するPCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。

PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

外部装置を追加するためにPCカードを装着した場合、外部装置とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。

 p.53「PCカードを使う」

プリンタの不具合

現象 印刷できない。

確認と対処 プリンタの電源および印刷するための準備が整っていることを確認してください。

プリンタのコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象 システムは正常に動作しているのに音がしない。

確認と対処 スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリューム調節ダイヤルで音量を調節してみてください。

スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象 インストール中に「WindowsCD」を要求されたので、「リカバリCD」をセットしたが、「ファイルが見つかりません」と表示されインストール作業が進まない。

確認と対処 「リカバリCD」は、リカバリ専用で作成されているため、リカバリCDから1つ1つのファイルを直接読み込むことはできません。「ファイルのコピー元」に次のフォルダを指定してください。

Windows98 の場合 : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS
Windows2000 の場合 : C:\¥I386\I386のIはアルファベット)
WindowsXP の場合 : C:\¥WINDOWS¥I386\I386のIはアルファベット)
(上記ファイルがCドライブにある場合)

現象 インストールが本書の手順どおりにできない。

確認と対処 本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。

CD-ROMドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。

本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールはSCUの設定と、システム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点はインフォメーションセンターまたはテクニカルセンターにお問い合わせください。

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

FAXモデムの不具合(FAXモデム機能搭載モデル)

現象 「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処 「モデムのプロパティ」で「詳細情報」または「モデムの照会」を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。

- ・ Windows98の場合
[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「モデム」-「検出結果」タブの「モデム(COM3)」を選択して、「詳細情報」をクリックします。
- ・ Windows2000の場合
[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「診断」タブの「モデムの照会」をクリックします。
- ・ WindowsXPの場合
[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「診断」タブの「モデムの照会」をクリックします。

現象 インターネットへ接続できない

確認と対処 モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。
次の場所で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。

- ・ Windows98の場合
[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「ダイヤルアップネットワーク」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ・ Windows2000の場合
[スタート]-「設定」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ・ WindowsXPの場合
[スタート]-「接続」-「接続(任意の名前)」-[プロパティ]-「ダイヤル情報」をクリックします。

次の方法でダイヤルの設定を変更してみてください。

- ・ Windows98の場合
 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「モデム」-[プロパティ]-「接続」タブの「接続オプション」項目 -「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外します。
- ・ Windows2000の場合
 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「全般」タブ-「ダイヤルの管理」項目 -「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。
- ・ WindowsXPの場合
 [スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「モデム」タブ-「ダイヤルの管理」項目 -「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。

- ・ 全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
- ・ 大文字と小文字をきちんと区別しているか。
- ・ 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。
- ・ ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
- ・ パスワードとメールパスワードを混同していないか。

ネームサーバーのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でネームサーバーのIPアドレスを確認します。

- ・ Windows98の場合
 - ①「マイコンピュータ」-「ダイヤルアップネットワーク」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
 - ②「サーバーの種類」タブ-[TCP/IP設定]をクリックしてネームサーバーアドレスを確認します。
- ・ Windows2000の場合
 - ①[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「ネットワークとダイヤルアップ」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。

②「ネットワーク」タブ-「インターネットプロトコル」を選択して「プロパティ」でDNSサーバーアドレスを確認します。

・ WindowsXPの場合

①「スタート」-「接続」-「接続(任意の名前)」-「プロパティ」をクリックします。

②「ネットワーク」タブ-「インターネットプロトコル(TCP/IP)」-「プロパティ」でDNSサーバーのアドレスを確認します。

原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合は、プロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときはこの方法で接続できる場合もあります。

次の理由で、接続できないことがあります。時間を置いて接続してみてください。

- ・ 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- ・ 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- ・ プロバイダのサーバーが停止している。

現象

V.90通信方式で通信できない。

確認と対処

回線状況によって、V.90通信方式で接続できない場合があります。V.90通信方式のほかにはx2方式がありますが、x2方式のモデムとは、V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.90通信方式で接続することができます。

PBX回線では、V.90通信方式では接続できません。V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。

現象

V.90、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処

V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に、通信速度を下げている場合があります。

警告メッセージが表示されたら

本機は電源スイッチを入れたときに、ハードウェアを検査するための自己診断テストを行います。テストの結果に問題があった場合は、次のいずれかの方法で、問題を知らせます。

Warning(警告)メッセージを表示する。

Fatal(致命的)メッセージを表示し、断続的にブザーを鳴らす。

断続的にブザーを鳴らす。

以降の説明を参照して、必要な処置を取ってください。

警告メッセージ "Warning"の文字に続いて次のメッセージが表示されます。各警告メッセージの処置を行っても直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

メッセージ	説明
CLOCK NOT TICKING CORRECTRY	内蔵時計が止まっています。 本機の電源を入れなおして、再起動します。
CMOS CHECKSUM INVALID-RUN SCU	CMOS RAM情報が壊れています。 SCUを起動し、「Exit」メニューで「Default Settings」または「Save and Exit」を選択します。
CMOS FAILURE -RUN SCU	サブ電池が放電したため、CMOS RAMの内容を保持できません。 SCUを起動し、「Exit」メニューで「Default Settings」または「Save and Exit」を選択します。
FLOPPY CONTROLLER FAILD	フロッピーコントローラがリセットコマンドに応答しません。 電源を切ってFDが正しくセットされているか確認します。 SCUを起動し、「Exit」メニューで「Default Settings」または「Save and Exit」を選択します。
FLOPPY DISK TRACK 0 FAILD	FDのトラック0を読み取れません。 FDを交換して、問題が解決されればFDに問題があります。
FLOPPY INFORMATION INVALID - RUN SCU	CMOSに登録してあるドライブのパラメータがシステムに装着されているFDDと一致しません。 SCUを起動し、「Disks」メニューの「Drive A」の設定を「1.44Mb」にします。

メッセージ	説明
HARDWARE INFO DOES NOT MATCH VIDEO CARD -RUN SCU	CMOS RAMに設定してあるビデオアダプタの種類が実際に装着されているものと一致しません。 システムがビデオシステムを正しく判断していません。本機の電源を入れなおして再起動します。
KEYBOARD CONTROLLER FAILURE	キーボードの自己診断テストコマンドに失敗しました。 本機の電源を入れなおして再起動します。
KEYBORD FAILURE	キーボードがRESET IDコマンドに応答しませんでした。 本機の電源を入れなおして再起動します。
NO INTERRUPTS FROM TIMER 0	周期タイマーが動きません。 本機の電源を入れなおして再起動します。
RAM PARITY ERROR AT LOCATION xxx	RAMのパリティエラーがxxxアドレス(16進表記)で発生しました。 再起動してもエラーになる場合は、DIMMを正しく装着しているか、また、異物が挟まっていないかを調べます。
ROM AT xx(LENGTH yyy) WITH NONZERO CHECKSUM (zz)	アドレス(16進表記)にあるアダプタのROMが規格外です。 本機の電源を入れなおして再起動します。
TIME/DATE CORRUPT -RUN SCU	SCUの「 Date and Time 」の情報が不正です。 SCUを起動して「 Startup 」メニューの「 Date and Time 」を設定しなおします。突然電源が切れたときなどに、この現象が起こることがあります。
UNEXPECTED AMOUNT OF MEMORY -RUN SCU	POSTで診断したRAMの容量が、CMOS RAMの指定と一致しません。 SCUを起動し、そのまま設定を保存して終了すれば正しいRAMの容量がCMOSに設定されます。突然電源が切れたときなどにこの現象が起こることがあります。

致命的メッセージ "Fatal"の文字に続いて次のメッセージが表示された場合、またはメッセージなしで断続的なブザーが鳴った場合は、本機の電源を入れなおして再起動してください。正常に再起動できない場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせいただくときには、表示されたメッセージ、およびブザーをメモに取っておいてください。

:ブッ :ブー

メッセージ	ブザー
CMOS RAM TEST FAILED	- - -休止- - - -休止
DMA CONTROLLER FAULTY	- - -休止- - - -休止
FAULTY DMA PAGE REGISTERS	- - -休止- - - -休止
FAULTY REFRESH CIRCUIT	- - -休止- - - -休止
INTERRUPT CONTROLLER FAILED	- - -休止- - - -休止
ROM CHECKSUM INCORRECT	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止
なし	- - -休止- - - -休止



付 録

お手入れ方法、HDD領域の変更方法
および仕様などについて説明して
います。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面の
お手入れ

LCD画面は、乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

クリーニングは、コンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

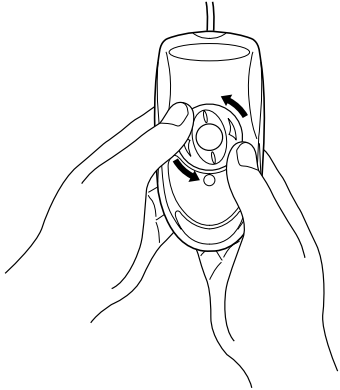
クリーニングの手順は、次のとおりです。



警告

小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。

マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

- 1 マウス底面のボールフレームを外します。
ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。

- 2 マウスボールを取り出します。
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

SCUで設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。
本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。
本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。
CR2032 または同等品)



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。
万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




リチウム電池の交換作業は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



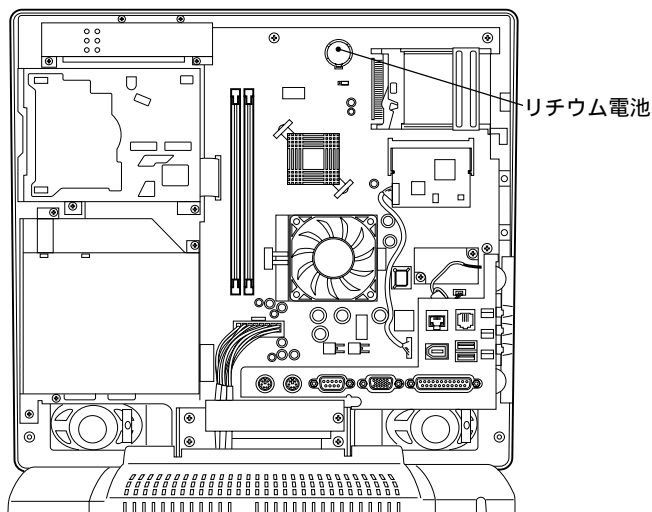
本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

リチウム電池の交換は、次の手順で行います。

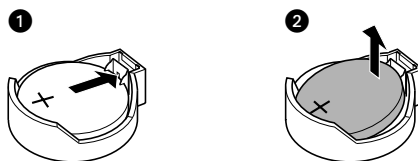
1

背面カバーを外します。必ず電源コードも外します。
 p.102「背面カバーの取り外し・取り付け」

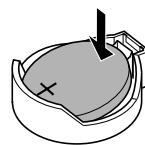
- 2 リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。




- 3 リチウム電池を抜きます。
- ① 電池ホルダの留め金を押します。
(電池ホルダの形状は機種により違う場合があります。)
 - ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。





- 4 新しいリチウム電池を取り付けます。
刻印面(+側)が上側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。



取り付けるときには、「カチッ」と音が鳴ります。

- 5 背面カバーを装着します。
 p.102「背面カバーの取り外し・取り付け」

- 6 外したケーブル類をもとどおりに接続します。

- 7 コンピュータの電源を入れます。 を押して、SCUを起動します。
 p.111「SCUの起動」
- 8 メニューバーの[Exit]を選択します。
- 9 ブルダウンメニューから「 Default Settings 」を選択します。
- 10 [OK]を選択します。
- 11 日付、時刻やそのほか変更がある場合は、再設定を行います。
- 12 メニューバーの[Exit]を選択します。
- 13 ブルダウンメニューから「 Save and Exit 」を選択します。
- 14 [OK]を選択し、SCUを終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、SCUで設定した各種情報などが保存されています。SCUで設定したパスワードを忘れて、設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作可能にすることができます。



警告

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



注意

CMOS RAMの初期化作業は、本機の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



制限

CMOS RAMを初期化すると現在のSCUの設定情報がクリアされます。

CMOS RAMを初期化する前に、SCUの設定値を記録しておくことをおすすめします。

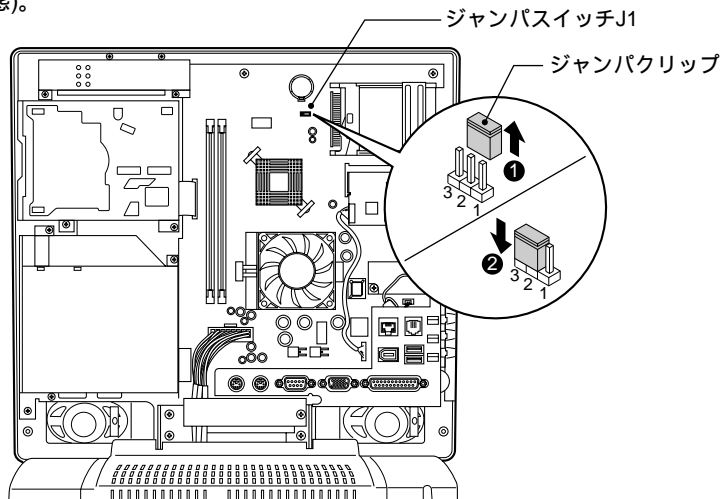
 p.122「SCUの設定値」

本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

CMOS RAMの初期化は、次の手順で行います。

- 1 背面カバーを外します。このとき、必ず電源コードも外します。
☞ p.102「背面カバーの取り外し・取り付け」

- 2 メインボード上のジャンプスイッチJ1を次のとおり変更します。
ジャンパクリップは、ピンセットなどを使って抜き差ししてください。先の鋭いものを使用する場合には、メインボードに傷を付けないように注意してください。
- ① ジャンパクリップが右側2本のピンに差し込まれています(1-2ショート状態)。このジャンパクリップを抜き取ります。
 - ② ジャンパクリップを左側2本のピンに差し込みます(2-3ショート状態)。



- 3 このまま5秒程度、放置します。
- 4 ジャンプスイッチJ1の設定をもとに戻します。
ジャンパクリップを1-2ショート状態に設定します。
- 5 背面カバーを装着します。
☞ p.102「背面カバーの取り外し・取り付け」
- 6 外したケーブル類をもとどおりに接続します。
- 7 コンピュータの電源を入れます。 **F2** を押して、SCUを起動します。
☞ p.111「SCUの起動」

- 8 | メニューバーの[Exit]を選択します。
- 9 | ブルダウンメニューから「 Default Settings 」を選択します。
- 10 | [OK]を選択します。
- 11 | 日付、時刻やそのほか変更の必要がある場合は、再設定を行います。
- 12 | メニューバーの[Exit]を選択します。
- 13 | ブルダウンメニューから「 Save and Exit 」を選択します。
- 14 | [OK]を選択し、SCUを終了します。

SCUの操作がPS/2マウスではできない場合があります。そのような場合は、キーボードで操作を行ってください。

ATコマンドの使用

(FAXモデム機能搭載モデルのみ)

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムにはモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

本機で使えるATコマンドの一覧(ATコマンドリファレンス)は、添付の「リカバリCD」(Windows2000ではDisc2、WindowsXPではDisc3)の「MODEM」フォルダにPDFファイルとして登録されています。(英文)

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア(Internet ExplorerやOutlook Expressなど)でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。

次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は、次の場所にあります。

Windows98の場合

「コントロールパネル」 「モデム」 [プロパティ] 「接続」タブ 「追加設定」

Windows2000の場合

「コントロールパネル」 「電話とモデムのオプション」 「モデム」タブ [プロパティ] 「詳細」タブ 「追加設定」

WindowsXPの場合

「コントロールパネル」 「プリンタとその他のハードウェア」 「電話とモデムのオプション」 「モデム」タブ [プロパティ] 「詳細」タブ 「追加設定」

現象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=34」(V.34) または 「AT+MS=90」(V.90) 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは、2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。

例: ATM0+ATX3=ATM0X3

FAXモデムボードを取り外すには

(FAXモデム機能搭載モデルのみ)

本機には、内蔵FAXモデムボードが搭載されています。内蔵FAXモデムボードを取り外したい場合は、次の方法で取り外すことができます。



電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



分解作業は、本機の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。


不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

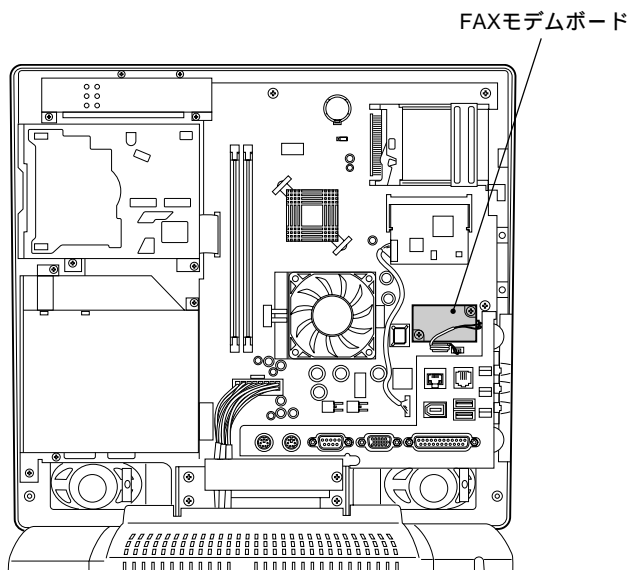
1

背面カバーを取り外します。このとき必ず電源コードも外します。

 p.102「背面カバーの取り外し・取り付け」

2

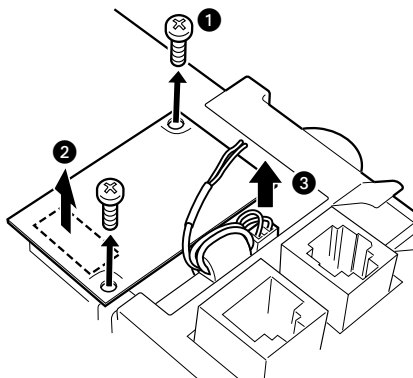
FAXモデムボードの位置を確認します。



3


FAXモデムボードを取り外します。

- ① ネジ(2本)を外します。
- ② ボードを外します。ボード左側がコネクタと接続されています。
- ③ モデムケーブルをコネクタから外します。



4

背面カバーを取り付けます。

 p.102「背面カバーの取り外し・取り付け」

5

外したケーブル類をもとどおりに接続します。


HDDを購入時の状態に戻す

本機は、HDDを購入時の状態に戻すことができます。何らかの原因でWindowsが起動しなくなったり、正常に動作しなくなった場合などに、HDDを購入時の状態に戻すことで問題が解決することがあります。



弊社製以外のBIOSを使用すると、リカバリの実行ができなくなります。弊社以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

HDDを購入時の状態に戻したあとは、バックアップディスクを作成することができません。購入時の状態に戻す前に、必ずバックアップディスクを作成してください。

 p. 26「バックアップディスクの作成」

必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のCD-ROMなどが必要です。

リカバリCD

Windowsと各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。
Windows2000用は2枚組、WindowsXP用は3枚組になっています。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

ユーティリティCD

「VirusScan for Windows」が登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるWindowsおよびシステム構成によって異なります。

HDDを購入時の状態に戻す順番

次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。

リカバリの実行 (☞ p.167)



「リカバリCD」を使用して、HDDのフォーマット作業およびWindowsと一部のデバイスドライバのインストール作業を自動で行います。

Windowsのセットアップ (☞ p.20)



購入時に行った「Windowsのセットアップ」をもう一度行います。

ディスプレイの設定 (☞ p.168)



マウスドライバのインストール (☞ p.170)



「マウスドライバCD」を使用して、マウスドライバのインストールを行います。

FAXモデムドライバのインストール (☞ p.171)
(FAXモデム機能搭載モデルのみ)



「リカバリCD」を使用して、FAXモデムドライバのインストールを行います。

セットアップ終了後の作業 (☞ p.26)



セットアップ終了後の設定やインストールなどを行います。

各種ドライバのインストール (☞ p.174)



プリンタやUSB機器などを使用する場合は、デバイスドライバのインストールを行います。

Save to Disk領域の作成 (Windows98のみ) (☞ p.176)

Windows98で休止状態を利用する場合に作成します。

HDDを購入時の状態に戻す場合の注意

HDDを購入時の状態に戻す場合は、必ず次の事項を確認してから作業を始めてください。



本機で使用している「リカバリCD」は、Windowsとドライバ類を同時にインストールします。Windowsのみをインストールすることはできません。

インストール全般

本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機購入後に周辺機器を接続した場合や、BIOSの設定を変更した場合は、購入時のシステム構成に戻してからリカバリを実行することをおすすめします。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD

Cドライブ : HDD(基本MS-DOS領域)


Dドライブ : CD-ROMドライブ

本章の説明では、本機に装着されているスリムドライブを「CD-ROMドライブ」として記載しています。

CD-R/RWドライブなどのドライブ装置が装着されている場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

リカバリの実行

リカバリを実行すると、バックアップディスクを作成することができなくなります。バックアップディスクを作成していない場合は、リカバリ実行前に、バックアップディスクを作成してください。

 p.26「バックアップディスクの作成」

リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップを取っておいてください。

HDDにCドライブのほかにDドライブ以降の領域を作成してある場合は、リカバリを実行する前にDドライブ以降の重要なデータもFDなどにバックアップしておいてください。リカバリ実行中にトラブルが発生した場合、Dドライブ以降の領域が消滅する可能性があります。

「リカバリCD」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。

リカバリ実行中は、「リカバリCD」を抜かないでください。

「リカバリCD」は、次のファイルシステムを使用してHDDを購入時の状態に戻します。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行すると同じファイルシステムでWindowsがインストールされます。

Windows98 : FAT32ファイルシステム

Windows2000 : FAT32ファイルシステム

WindowsXP : NTFSファイルシステム

各種ドライバのインストール

デバイスドライバのインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。このような場合には、「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

Windows98 : C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000 : C:¥I386(¥I386のIはアルファベット)

WindowsXP : C:¥WINDOWS¥I386(¥I386のIはアルファベット)

モデムのインストール

FAXモデム(FAXモデム機能搭載モデル)や、接続している周辺機器が次の場所で検出されます。「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「新しいハードウェアの検索ウィザード」が表示された場合は、[キャンセル]をクリックしてください。

Windows98 : 「リカバリの実行」手順8のあと

Windows2000/WindowsXP : 「Windowsのセットアップ」手順2のあと

これらのドライバのインストールは、p. 163の「HDDを購入時の状態に戻す順番」に従って行ってください。

セットアップ時の
手順について Windows98では「Windowsのセットアップ」の手順1に記載されている作業のうち、次の作業は、再セットアップ時には表示されません。
「モデムの接続」、「日時と時刻の設定」、「お知らせ」、「バックアップディスクの作成」



セットアップ終了後
の作業 「セットアップ終了後の作業」の次の作業は、必要に応じて行ってください。これらの作業は、購入後電源を初めて入れたときに行う「Windowsのセットアップ」後に一度行っているため、通常は必要ありません。

Windows98 : Windows98起動ディスクの作成

Windows2000 : セットアップブートディスクの作成

リカバリの実行

リカバリの実行は、次の手順で行います。

- 1 SCUを起動して、CD-ROMの起動順位を1番に変更します。
 - ① コンピュータの電源を入れて、**F2** を押し、「SCU」を起動します。
 p.111「SCUの起動」
 - ② メニューバーの「Startup」-「Boot Device」を選択します。
 - ③ 「1st Boot Device」項目に「CD-ROM Drive」を選択して「OK」を選択します。
- 2 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
Windows2000/WindowsXPの場合は「リカバリCD Disc1」をセットします。
- 3 SCUを終了します。
 - ① メニューバーの「Exit」-「Save and Exit」を選択します。
 - ② 設定画面が表示されたら、「OK」を選択します。
- 4 「EasyRestore」画面が表示されたら、「続ける」をクリックします。
- 5 「警告」画面が表示されます。「はい」をクリックします。
- 6 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、15分程かかります。
Windows2000/WindowsXPの場合は、画面の指示に従って「リカバリCD Disc2/Disc3」をセットします。
- 7 「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD」を抜いて「再起動」をクリックします。
WindowsXPで再起動画面が表示されずに、コマンドプロンプト(P:¥>)が表示された場合は**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して、再起動してください。
- 8 コンピュータの再起動時に「SCU」を起動して、「1st Boot Device」項目で「Diskette A」を選択し、起動順位をもとに戻します。
- 9 コンピュータが再起動するとWindowsのセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。
続けてWindowsのセットアップを行います。
 p.20「Windowsのセットアップ」

ディスプレイの設定

Windows98の
場合

次の方法でディスプレイの設定を行います。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブ-[詳細]をクリックします。
- 3 「モニタ」タブ-[変更]をクリックします。
- 4 次のディスプレイを選択して「OK」をクリックします。
製造元：「標準モニタの種類」
モデル：「ラップトップディスプレイパネル 1024 x 768」
- 5 「OK」をクリックして「画面」のプロパティを閉じます。これでディスプレイの設定は終了です。

Windows2000
の場合

次の方法でディスプレイの設定を行います。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「画面のプロパティ」の「設定」タブの「詳細」をクリックします。
- 3 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックし、「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
- 4 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で「次へ」をクリックします。

- 5 「このデバイスの既知のドライバを表示して...」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 6 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」にチェックを付けます。
- 7 一覧から次のディスプレイを選択して「次へ」をクリックします。
製造元:「標準モニタの種類」
モデル:「Digital Flat Panel(1024 x 768)」
- 8 「次のハードウェアデバイスのドライバをインストールします。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されます。「完了」をクリックします。
- 10 画面のプロパティを閉じます。これでディスプレイの設定は終了です。

WindowsXPの
場合

次の方法でディスプレイの設定を行います。

- 1 「スタート」-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。
- 2 「詳細設定」をクリックします。
- 3 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックし、「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
- 4 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で「一覧または特定の場所から...」を選択して「次へ」をクリックします。
- 5 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択して「次へ」をクリックします。

- 6 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外します。
- 7 一覧から次のディスプレイを選択して[次へ]をクリックします。
製造元:「標準モニタの種類」
モデル:「Digital Flat Pane(1024 x 768)」
- 8 「次のハードウェアデバイスのドライバをインストールが完了しました」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 画面のプロパティを閉じます。これでディスプレイの設定は終了です。

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると、セットアッププログラムが自動的に起動します。
「設定言語の選択」と表示された場合は、[OK]をクリックします。
- 2 「インストール先の選択」と表示されます。[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「…コンピュータを再起動する必要があります。」と表示されたら、「…コンピュータを再起動します」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。これでマウスドライバのインストールは終了です。



セットアッププログラムが自動的に起動しない場合は
[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に次のとおり入力し
[OK]をクリックします。

D:¥SETUP

FAXモデムドライバのインストール(FAXモデム機能搭載モデル)

Windows 98 の場合 Windows98インストールモデルのFAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「デバイスマネージャ」タブ-[更新]をクリックします。
- 5 「次の新しいドライバを検索しています:PCI Card」と表示されたら[次へ]をクリックします。
- 6 「検索方法を選択してください。」と表示されたら、「使用中のデバイスに最適なドライバを...」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 7 「検索場所の指定」にチェックを付けて、次のとおり入力し[次へ]をクリックします。
D:¥MODEM¥WIN98
- 8 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します.:LP200 MDC Modem」と表示されます。[次へ]をクリックします。
- 9 「...インストールされました。」と表示されたら[完了]をクリックします。
- 10 「ディスクの挿入」画面で「Windows98 Second Edition CD-ROM上のファイルmdmslamr.catが見つかりませんでした。...」と表示された場合は、「ファイルのコピー元」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥MODEM¥WIN98
- 11 「システムのプロパティ」を閉じてからWindowsを再起動します。
Windows が再起動するとFAXモデムドライバのインストールは終了です。

- 1 「リカバリCD Disc2」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」-「ハードウェア」タブをクリックします。
- 4 [デバイスマネージャ]をクリックします。
- 5 「その他のデバイス」の「PCI Device」をダブルクリックします。
- 6 「全般」タブ-[ドライバの再インストール]をクリックします。
- 7 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」が表示されます。
[次へ]をクリックします。
- 8 「デバイスに最適なドライバを検索する」にチェックを付けて[次へ]をクリック
します。
- 9 「場所を指定」にチェックを付けて、「CD-ROMドライブ」のチェックを外してか
ら[次へ]をクリックします。
- 10 「製造元のファイルのコピー元」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
D:¥MODEM¥WIN2000
- 11 「次のデバイスのドライバが検索されました: PCI Device」と表示されたら
[次へ]をクリックします。
- 12 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」で[完了]をクリックします。
- 13 「デバイスマネージャ」画面を閉じてWindowsを再起動します。
Windowsが再起動するとFAXモデムドライバのインストールは終了です。

WindowsXPの
場合

WindowsXPインストールモデルのFAXモデムドライバのインストールは次の手
順で行います。

- 1 「リカバリ Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」
-「システム」をクリックします。
- 3 「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]をクリックします。
- 4 「その他のデバイス」の「PCI モデム」をダブルクリックします。
- 5 [ドライバの再インストール]をクリックします。
- 6 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」画面が表示されたら「一覧または
特定の場所からインストールする」にチェックを付けて[次へ]をクリック
します。
- 7 「次の場所を含める」にチェックを付けて名前に次のとおり入力します。
D:¥MODEM¥WINXP
- 8 「リムーバブルメディア」にチェックが付いている場合はチェックを外し
てから[次へ]をクリックします。
- 9 「ハードウェアのインストール」画面で[続行]をクリックします。インス
トールが開始されます。
- 10 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」で[完了]をクリックします。
- 11 「デバイスマネージャ」を閉じてWindowsを再起動します。これでFAXモ
デムドライバのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お使いのシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

USB対応機器を使用する場合 : USB機器に添付のドライバ
プリンタを使用する場合 : プリンタに添付のドライバ

マニュアル
ディスクの
インストール

『ユーザーズマニュアル』(本書)のPDFファイルをインストールします。

- 1 「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
A:¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

SBSIの
インストール
(WindowsXP
のみ)

WindowsXPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「ステップバイステップインタラクティブ(SBSI)」をインストールします。
「ステップバイステップインタラクティブ」のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 入力した「名前」と「会社名」の確認の画面が表示されます。入力した情報が正しければ、[はい]をクリックします。インストールが開始されます。
- 8 「セットアップが完了しました……」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 10 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥QFE¥Q307460
- 11 コマンドプロンプト画面が一瞬表示されて閉じます。これで「ステップバイステップインタラクティブ」のインストールは終了です。

Save to Disk領域の作成(Windows98のみ)

Save to Disk領域は、省電力モードの休止状態に入ったときに、作業中断時の状態を保存するためのHDD内の領域です。Save to Disk領域が作成されていないと、休止状態に入れません。

 p.92「省電力機能を使う」

本機では、Save to Disk領域をHDD内に「ファイル」として領域を作成します。ただし、このファイルは表示されません。

出荷時のHDDにはSave to Disk領域は作成されていません。必要に応じて作成してください。



参考

次の場合には、Save to Disk領域の作成は必要ありません。

休止状態を使用しない場合

Windows2000/WindowsXPを使用する場合

Save to Disk 領域のサイズ



Save to Disk領域に必要なサイズは、メインメモリの容量によって異なります。
Save to Disk領域に必要なサイズは、次のとおりです。

$$\text{Save to Disk領域容量} = \text{内蔵メモリ容量} + 20\text{MB}$$



メモリを増設した場合は、Save to Disk領域を一度削除し、メモリ容量に合わせて作成し直す必要があります。

Save to Disk領域の作成と削除は、次の手順で行います。

Save to Disk 領域の作成

- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.181「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプトが「A:¥>」と表示されたら、コマンドプロンプトに次のとおり入力し  を押します。(メモリを128MB搭載の場合)
P:¥0VMAKFIL - F148 (0は数字、 はスペースを意味します。)
「148」はメモリが128MBの場合のSave to Disk領域容量(内蔵メモリ容量 + 20MB)です。
- 3 「...Suspend-To-Disk is Enabled.」と表示されコマンドプロンプトが表示されます。これでSave to Disk領域の作成は終了です。

Save to Disk 領域の削除

- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.181「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプトが「A:¥>」と表示されたら、コマンドプロンプトに次のとおり入力し  を押します。
P:¥0VMAKFIL - R (0は数字、 はスペースを意味します。)
- 3 「...Suspend To Disk File/Partition has been removed.」と表示されコマンドプロンプトが表示されます。これでSave to Disk領域の削除は終了です。

作業が終了したら忘れずに「SCU」の起動順位をもとに戻してください。

HDD領域の変更

HDD領域の変更は、ドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいときなどに行います。通常は、HDD領域の変更を行う必要はありません。

MS-DOS領域の概要

MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合には必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

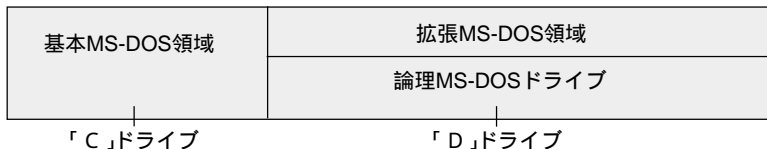
基本MS-DOS領域は、必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして分けられ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

基本MS-DOS領域のみを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



WindowsXP
の場合

WindowsXPインストールモデルの購入時のHDD領域はNTFSでフォーマットしているため「非MS-DOS領域」になります。

非MS-DOS領域は、Windowsの「ディスクの管理」で変更できます。「ディスクの管理」では、プライマリパーティションと拡張パーティションが作成できます。1つのHDDに作成できるパーティションは、プライマリパーティションを4つ、またはプライマリパーティションを3つと拡張パーティションを1つまでです。プライマリパーティションは1つのドライブとして使用し、拡張パーティションには論理ドライブを作成します。論理ドライブはいくつでも作成することができます。「ディスクの管理」に関する詳しい説明は「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

本機でHDD領域の設定を変更する場合は、いったんFDISKコマンドでFAT32の領域を作成する必要があります。詳しくはp.188「基本MS-DOS領域の作成」をご覧ください。

HDD領域変更の手順

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を作成しなくてはなりません。

HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。



制限

領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめFDなどにバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

Windows98/
Windows2000
の場合

MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域の削除は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で行います。

MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域の作成は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で行います。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

WindowsXP
インストールモデル
の場合

既存領域の削除



既存の領域を削除します。WindowsXPがインストールされている領域は「非MS-DOS領域」です。

MS-DOS領域の作成



WindowsXPをインストールする領域と拡張MS-DOS領域をFDISKコマンドを使用して作成します。ここで作成した拡張MS-DOS領域はWindowsXPの拡張パーティションになります。

WindowsXPのインストール



p.162「HDDを購入時の状態に戻す」を参照して、WindowsXPをインストールします。

論理ドライブの作成

拡張パーティションにWindowsXPの「ディスクの管理」で論理ドライブを作成します。

WindowsXPをインストールする領域は、領域作成時にFAT32ファイルシステムに設定されていますが、WindowsXPをインストールするときにNTFSに再設定されます。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは、「リカバリCD(Windows2000/WindowsXPはDisc1)」に登録されています。

大容量ディスク
サポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。FAT32ファイルシステムでは、どんな容量のHDD領域でも1つのHDDとして使用できます。

Windows98/Windows2000インストールモデルのCドライブは、FAT32ファイルシステムに設定してあります。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行すると、FAT32ファイルシステムに設定されます。

領域をアクティブにする

FDISK コマンドを使用して、1 台のHDD に基本MS- DOS 領域 (C ドライブ) と拡張MS- DOS 領域 (D ドライブ以降) を作成する場合は、必ずC ドライブ (Windows をインストールする領域) をアクティブに設定します。アクティブ領域に設定しないとWindows をインストールすることができません。アクティブ領域の設定は、「基本MS- DOS 領域の作成」の手順に従って行ってください。

 p.183「基本MS- DOS 領域の作成」


64GB以上のHDDを使用して
いる場合の注意

64GB以上のHDDでFDISKコマンドを実行する場合は次の点に気をつけてください。

- ・ ディスク容量が間違っ表示されることがありますが、実際には正しく認識されています。
- ・ 領域の作成時に容量を設定する場合は、容量ではなく全容量に対する割合 (%) を入力してください。容量を入力すると正しく領域を作成することができません。

コンピュータの起動

次の手順でWindowsを起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 SCUを起動して、CD-ROMの起動順位を1番に変更します。
 - ① コンピュータの電源を入れて、**F2** を押し、「SCU」を起動します。
 p.111「SCUの起動」
 - ② メニューバーの「Startup」-「Boot Device」を選択します。
 - ③ 「1st Boot Device」項目の「CD-ROM Drive」を選択して **[OK]** を選択します。
- 2 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
Windows2000/WindowsXPの場合は「Disc1」をセットします。
- 3 SCUを終了します。
 - ① メニューバーの「Exit」-「Save and Exit」を選択します。
 - ② 設定画面が表示されたら、**[OK]** を選択します。


- 4 コンピュータが再起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックします。
- 5 画面左上にコマンドプロンプト(A:¥>)または(P:¥>)が表示されます。

作業が終了したら忘れずに「SCU」の起動順位をもとに戻してください。

HDD領域の変更(Windows 98/Windows 2000)

既存領域の
削除


次の手順でMS-DOS領域を削除します。


- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.182 「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますが(Y / N)」と表示されます。 または を押して を押します。
通常は、「Y」を選択します。
- 4 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。 を押してから を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。
基本MS-DOS領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除することができます。
ここでは基本MS-DOS領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)
 を押してから を押します。
- 6 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して を押します。

- 7 削除する領域のボリュームラベルを入力し、を押します。
画面上部に表示されている領域の情報で「ボリュームラベル」を確認してください。「ボリュームラベル」が空白の場合は、何も入力せず を押します。
- 8 確認メッセージが表示されたら、を押して を押します。
基本MS-DOS領域が削除されます。
- 9 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合は、p.183「MS-DOS領域の作成 手順4」に移ります。
- 10 を押してFDISKを終了します。
- 11 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

基本MS-DOS 領域の作成


次の手順でMS-DOS領域を作成します。

- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.182 「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。
 または を押して を押します。
通常は、「Y」を選択します。
- 4 処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。

- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。
- 7 を入力した場合と を入力した場合で次のように作業が異なります。
 を入力して を押した場合
基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。
FDISKを終了させてから + + を押して、コンピュータを再起動します。
再起動後にリカバリを行います。
 p.167「リカバリの実行」

 を入力して を押した場合
 を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを%で入力し を押します。続いて手順8に進みます。
- 8 基本 MS-DOS 領域が作成されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。
- 9 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。 を押してから を押します。
- 10 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。 を押してから を押します。
- 11 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

拡張MS-DOS領域と
論理MS-DOS
ドライブの
作成

- 1 2 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 3 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 4 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを %で入力して、を押します。
- 1 5 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 1 6 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを%で入力し、を押します。
- 1 7 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。
- 1 8 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。
これでMS-DOS領域の作成は終了です。Windowsをインストールする領域(Cドライブ)以外の領域は、再起動後にフォーマットを行ってください。
 p.186「MS-DOS領域のフォーマット」
Windowsのインストールは、p.162「HDDを購入時の状態に戻す」をご覧ください。

MS-DOS
領域の
フォーマット


HDD領域を変更した場合は、各領域のフォーマットが必要です。ただし、Cドライブはリカバリ実行中にフォーマットを行うのでここでは必要ありません。

64GB以上のHDDをフォーマットする場合の注意

64GB以上のHDDでFORMATコマンドを実行した場合、誤ったディスク容量が表示されることがありますが、実際には正しくフォーマットが行われています。フォーマット終了後には、正しい容量が表示されます。

フォーマットの手順


フォーマットの手順は次のとおりです。

- 1 「リカバリCD」を使って、コンピュータを起動します。
 p.181 「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。(Dドライブをフォーマットする場合)
FORMAT D: (はスペースを意味します。)
- 3 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、
 を押して を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。
必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

HDD領域の変更(WindowsXP)

既存領域の削除

ここではWindowsXPのインストールされている領域を削除します。WindowsXPの「ディスクの管理」で作成したパーティションは「ディスクの管理」で削除してください。

- 1 「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。
 p.181 「コンピュータの起動」

- 2 コマンドプロンプト(P:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y / N)」と表示され
ます。 を押して を押します。
- 4 「すべてのNTFSパーティションを大容量ドライブとして取り扱います
か?(Y/N)」と表示されます。 を押して を押します。
- 5 「FDISKオプション」から「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」
を選択します。 を押してから を押します。
- 6 「非MS-DOS領域を削除」を選択します。 を押してから を押し
ます。
- 7 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されているこ
とを確認して を押します。
- 8 確認メッセージが表示されたら、 を押して を押します。
WindowsXPがインストールされているNTFS領域が削除されます。
- 9 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合はp.188「基本MS-DOS領域の作成 手順4」に移ります。
- 10 を押してFDISKを終了します。
- 11 コマンドプロンプト(P:¥>)が表示されます。
これでWindowsXPがインストールされていた領域の削除は終了です。









基本MS-DOS 領域の作成


ここでは、HDD領域を分割して、WindowsXPをインストールする領域と拡張MS-DOS領域を作成する方法について説明します。

HDD領域を分割する場合は、最初にFDISK コマンドを使って、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」を作成しておく必要があります。「基本MS-DOS領域」は、WindowsXPをインストールする「プライマリパーティション」に、「拡張MS-DOS領域」は、「拡張パーティション」になります。

「基本MS-DOS領域」は、FAT32 ファイルシステムで作成されますが、リカバリ実行後は、NTFSに設定変更されます。


「拡張MS-DOS領域」を作成せずに、未設定領域のままリカバリを実行すると、HDD領域は分割されず、1パーティションとして設定されてしまいますので、注意してください。

- 1 「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。
 p.181 「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプト(P:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。
 を押して  を押します。
- 4 「FDISKオプション」から「1.MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから  を押します。
- 5 「MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1.基本MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから  を押します。

- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。
領域を2つ以上作成する場合は を選択、領域を1つ作成する場合は を選択します。
 を入力して を押した場合
基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。
FDISKを終了させてから + + を押して、コンピュータを再起動し、Windowsのインストールを行います。
 p.162「HDDを購入時の状態に戻す」
- を入力して を押した場合
「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。
割り当てるサイズを%で入力し を押します。
- 7 基本 MS-DOS 領域が作成されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。
- 8 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。 を押してから を押します。
- 9 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。 を押してから を押します。
- 10 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。 を押して、「FDISKオプション」を表示します。
- 11 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 12 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 13 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを%で入力して を押します。

14 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。**[Esc]** を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。

15 **[Esc]** を数回押してFDISKを終了します。
[Ctrl] + [Alt] + [Delete] を押してコンピュータを再起動し、Windowsのインストールを行います。

 p.162「HDDを購入時の状態に戻す」

未設定の領域はWindowsのインストールを行ったあと、p.190「論理ドライブの作成」を行います。

論理ドライブの作成

HDD領域の変更時、拡張MS-DOS領域(拡張パーティション)を作成した場合は、論理ドライブを作成します。

論理ドライブの作成方法は次のとおりです。

次の作業は、WindowsXP上で行います。WindowsXPのインストール後に行ってください。

1 [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「管理ツール」-「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

2 画面左側の「記憶域」にある「ディスクの管理」をクリックします。

3 「ディスク0」の「空き領域」を右クリックし、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」を選択します。

4 新しいパーティションウィザードが起動したら、画面の指示に従って設定を行います。

新しいドライブが割り当てられます。フォーマットが終了すると領域が使用できるようになります。



制限

WindowsXPで作成した論理ドライブは、FDISKコマンドでは削除できません。論理ドライブを削除する場合は、必ず「ディスクの管理」から実行してください。

機能仕様一覧

CPU		Intel Pentium IIIプロセッサ	Intel Celeronプロセッサ
メモリ	ROM	BIOSその他(256KB FLASH ROM使用)	
	メインメモリ	最大512MBまで増設可能(DIMMスロット×2) (うち8、16、32MBのいずれかの容量をビデオメモリとして使用)	
	ビデオメモリ	メインメモリの一部を使用(初期設定値=8MB)	
ビデオ	コントローラ	SiS 630ST	
	バス	AGPバス	
画面表示	液晶タイプ	15型TFT XGAカラー液晶 最大1024×768ドット、32bit色	
	外部ディスプレイ接続	最大1920×1440 16bit色	
サウンド	コントローラ	AC'97対応	
	バス	PCIバス	
記憶装置	FDD	3モード対応3.5型FDD1基内蔵	
	HDD	IDE HDD1基内蔵	
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブ1基内蔵	
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)	
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)	
	VGAインタフェース	1(アナログRGB D-SUB 15ピン)	
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	サウンドインタフェース	ステレオスピーカ内蔵(3W+3W) ライン入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1	
	IrDA	IrDA1.1準拠 FIR(4Mbps) SIR(115.2Kbps)対応	
	USBインタフェース	4(背面×2、右側面×2)	
	IEEE1394インタフェース	1(Mini PCI 6ピン 電源供給なし) IEEE1394機能搭載モデル)	
	FAXモデムインタフェース	FAXモデム(RJ-11、V.90対応) FAXモデム機能搭載モデル)	
ネットワークインタフェース	ネットワーク(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動確認)		
PCカードスロット	2スロット Typell ×2または Typelll ×1 (PC Card Standard準拠CardBus対応)		
カレンダー時計	内蔵 内蔵電池によりバックアップ)		
電源容量	130 W		
入力電圧	入力AC100V ±10V, 50/60Hz		
温湿度条件	温度: 10 ~ 35 湿度: 20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)		
外形寸法	本体: 約369(幅) × 175 ~ 188(側面部 ~ 中央部の奥行) × 384(高さ) mm		
重量	本体: 約7.9Kg		
消費電力	待機時消費電力24W(最大80W)		

* 認定番号ラベルは、コンピュータの背面に貼付されています。

キーボード	日本語対応106コンパクトキーボード
マウス	ホイール付きPS/2マウス

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略です。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。

類義語 CMOS RAM

Boo(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

CPU

Central Processing Unitの略です。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DRAM(ディナラム)

メモリの種類です。Dynamic Random Access Memoryの略です。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムのことです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16では2GBまで)。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけでなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IEEE1394

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

IRQ

Interrupt Requestの略です。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドカードではIRQ7を使用します。

ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のことです。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータ送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

OS

Operating Systemの略です。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种です。一般的に採用されている拡張バスで、ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。

高速性を要求される拡張カードに使用されます。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持し続けます。SCUやBIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS-232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SCU

コンピュータの動作状態を設定したり変更するためのプログラムです。BIOSとセットでROMで提供されています。SCUで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

TA(ターミナルアダプタ)

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

USB

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。

Ultra ATA100

IDEインタフェース上において100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能です。

アカウント

ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。=HDDのデータを読み書きします。

アクセスポイント

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アップロード

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

【使用例】 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

【使用例】 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

解像度

画面表示の細かさのことです。

【使用例】 1024×768ドットの解像度で表示します。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

【類義語】 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

【類義語】 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

【使用例】 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

【使用例】 次のコマンドを入力してください。

サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。=コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ダイヤルアップ接続

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するためにプロバイダに接続することを言います。

ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

ディザリング

複数の画素を組み合わせ、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニター

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

ドライブレター

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリ。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)ものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

【使用例】 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

【類義語】 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

ボリュームラベル

HDDやFDにつけた名称のことです。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

【使用例】 メインメモリは128MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語 ログイン/ログアウト

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

2HD(FDD)	45
2DD(FDD)	45
3.5型フロッピーディスクドライブ	9, 45

A

Adobe Acrobat Reader	5
ADSL	77
ATコマンド	158

B

Boot Password	115
BIOS (SCU)	110

C

CapsLock	43
CardBus	53
CD-ROM	50
CD-ROMドライブ	9, 50
~の不具合	136
CD-ROMドライブのアクセスランプ	7, 9
CMOS RAMの初期化	155
COAラベル	3

D

DIMM (メモリ)	100
~の不具合	139

F

FAT32	180
FAXモデム	74
~カードの取り外し方	160
~ドライバのインストール	171
~の不具合	142
ATコマンド	158
インターネットに接続する	76

FD (フロッピーディスク)	45
FDD (フロッピーディスクドライブ)	9, 45
~の不具合	135

FDISKコマンド	180
FIR	57
Fnキー	44
FORMATコマンド	180

H

HDD (ハードディスクドライブ)	49
~購入時の状態に戻す	162
~の不具合	136
~領域の変更	178
HDDアクセスランプ	7

I

IEEE1394	8, 98
IrDA	57
ISDN	77
Internet Explorer	86

J

JAVA VM	34
---------------	----

L

LAN	97
LCD画面	63
~のお手入れ	150
~の不具合	132
LCDユニット	7

M

MS-DOS領域	178
MS-DOS領域のフォーマット	186
MS-IME	42

N	
NTFS	49
NumLock	43
O	
Outlook Express	86
P	
Passwordの設定	115
PBX	74
PCカード	53
~の不具合	139
PCカードスロット	10
PCカードイジェクトボタン	10
S	
Safeモード	124
Save to Disk領域	93
~の作成	176
Scroll Lock	43
SCU	111
~の設定項目	118
SCU Password	115
SIR	63
U	
USB	98
USBコネクタ	8, 9, 107
V	
VGAコネクタ	8, 64
VirusScan for Windows	6, 98

W	
Wake on Ring	75
WindowsXP	
~のセットアップ	24
バックアップディスクの作成	26
Windows2000	
~セットアップ	22
バックアップディスクの作成	26
セットアップブートディスクの作成	29
Windows98	
~のセットアップ	20
バックアップディスクの作成	21
~起動ディスクの作成	28

X	
XGA	63

50音順

あ	
アイコン	(8)
アウトLOOKエクスプレス	86
い	
インストール	
FAXモデムドライバ	171
マウスドライバ	170
インターネットに接続	76
インターネットエクスプローラ	86
インタラクティブトレーニング	33
う	
ウイルス	98

お

お気に入り (ホームページ)	89
お手入れ	150
お問い合わせ情報	3
音量の調節	31, 72

か

解像度の変更	68
拡張MS-DOS領域	178
拡張パーティション	179
かな入力	42

き

キーボード	41
~ コネクタ	8
~ の接続	13
~ 不具合	129
キーロック表示ランプ	43
起動方法	181
輝度調節ダイヤル	10
基本MS-DOS領域のフォーマット	186
機能キー	41
機能仕様一覧	191
休止状態	93
強制取り出し (CD-ROMドライブ)	52

く

クリック	40
------------	----

け

警告メッセージ	145
ケンジントンロック	9

こ

コンピュータウイルス	98
------------------	----

さ

サウンド機能	72
--------------	----

し

システムの拡張	94
シリアルコネクタ	8, 97, 107
仕様	191
省電力機能	92
~ の不具合	129
シングルモード	65

す

数値キー	41
スクロール	40
スタンバイ	92
スピーカ	7
~ の不具合	140
スリムドライブ	9

せ

赤外線通信	57
セットアップ	
Windows98インストールモデル	20
Windows2000インストールモデル	22
WindowsXPインストールモデル	24
セットアップブートディスクの作成	29

そ

外付けディスプレイ	63
-----------------	----

た

ダイヤルアップ接続	80
大容量ディスクサポート	180
タスクバー	(8)
タブ	(8)

ダブルクリック	40
ち	
直接入力モード	42
て	
ディスプレイ	63
~の接続（外付け）	65
~の不具合（LCD）	132
デスクトップ	(8)
デスクトップクリーンアップ	33
電源コードの接続	15
電源コネクタ	9
電源スイッチ	7
電源の入れ方	19
電源の切り方	35
電源ランプ表示	94
添付ソフトウェア	5
電話回線	74
~への接続	14
と	
ドラッグアンドドロップ	40
な	
内蔵ステレオスピーカ	7
に	
日本語入力	42
入力キー	41
ね	
ネットワーク	97
~の接続	14
ネットワークコネクタ	8

は

背面カバーの取り外し・取り付け	102
ハードディスクドライブ（HDD）	49
~の領域の変更	178
~の不具合	136
パスワード	115
~の初期化	155
バックアップディスクの作成	26
FD	45
HDD	49
パラレルコネクタ	8, 97, 107
ハングアップ	37

ひ

非MS-DOS領域	179
表示色の変更	68
表示装置	63

ふ

フォーマット（FD）	46
プライマリパーティション	179
プリンタの不具合	140
フロッピーディスクドライブ（FDD）	9, 45
フロッピーディスク（FD）	45
プロバイダ	76

へ

ベースユニット	7
ヘッドフォン出力コネクタ	10, 72

ほ

ボタン	(8)
ボリューム	10, 72

ま

マイク入力コネクタ	10, 72
マウス	40
~ コネクタ	8
~ ドライバのインストール	170
~ のお手入れ	150
~ の接続	13
~ の不具合	131
マニュアルディスク	6
マルチモニタモード	65

み

ミラーモード	65
--------------	----

め

メールアカウントの設定	81, 84
メールの送受信	91
メモリ (DIMM)	100
~ の不具合	139

も

文字を入力するには	42
モデム	74
モデムコネクタ	8, 107

ゆ

ユーティリティCD	6
-----------------	---

ら

ライトプロテクト (FD)	48
ライン入力コネクタ	10, 72

り

リカバリCD	5
リカバリの実行	167
リセット	37
リチウム電池の交換	152

ろ

ローマ字入力	42
論理MS-DOSドライブ	178

わ

ワイヤレスリンク	57
----------------	----

Memo

Memo

Memo

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

漏洩電流自主規制について

本装置は、（社）電子情報技術産業協会（（社）日本電子工業振興協会）のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

VirusScanは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標（地域によっては登録商標）です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



エプソン販売株式会社



大豆油インキを
使用しています。



このユーザーズマニュアルは
再生紙を使用しています。

C77195001 02.04-20.00(SO)